

まちづくり市民意向調査結果及び 満足度分析結果

平成28年11月

登米市企画部企画政策課

目 次

1 調査概要	(頁)
(1) 調査目的	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収状況	2
2 調査結果	(頁)
【問1】生活環境の満足度・重要度	3
(1) 満足度・重要度の順位	5
●満足度の高かった上位5項目	5
●重要度が高かった上位5項目	5
●満足度の点数の上がり幅が大きかった上位5項目	5
●満足度の点数の下がり幅が大きかった上位5項目	5
(2) 満足度の分析	6
【問2】登米市の暮らしやすさ	12
【問3】定住意向	13
【問4】定住したい理由	14
【問5】転居したい理由	15
【問6】登米市の将来イメージ	16
【問7】登米市の強み	17
【問8】登米市の弱み	18
【問9】地域発展に向けた重点施策	19
【問10】都市整備や市街地開発の方向	20
【問11】農地のあり方	21
【問12】山林のあり方	22
【問13】住宅地のあり方	23
【問14】商業地のあり方	24
【問15】工業地のあり方	25
【問16】性別	26
【問17】年代	27
【問18】居住地	28
【問19】職業	29
【問20】通勤・通学先	30
【問21】居住経験	31

1 調査概要

(1) 調査目的

生活環境の満足度や重要度、市の目指すべき方向性などについて市民の意識を把握し、今後のまちづくりに生かすことを目的とする。

(2) 調査内容

● 日ごろの生活環境について	農地のあり方 問11
生活環境の満足度・重要度 .. 問1	山林のあり方 問12
(49項目)	住宅地のあり方 問13
登米市の暮らしやすさ 問2	商業地のあり方 問14
● 今後の居住意向について	工業地のあり方 問15
定住意向 問3	● 回答者の属性
定住したい理由 問4	性別 問16
転居したい理由 問5	年代 問17
● これからのまちづくりについて	居住地 問18
登米市の将来イメージ 問6	職業 問19
登米市の強み 問7	通勤・通学先 問20
登米市の弱み 問8	居住経験 問21
● 将来の登米市の土地利用について	
地域発展に向けた重点施策 問9	
都市整備や市街地開発の方向 .. 問10	

(3) 調査方法等

調査方法	行政区長による配付及び郵送による回収
調査対象	18歳以上の登米市民5,000人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査期間	平成28年6月21日から7月8日まで

(4) 回収状況

回収率は、44.5%で前回調査より19.9ポイントの低下となりました。
 性別による回収率は、男性が38.1%、女性が48.0%で、男女ともに前回調査を下回りました。
 年代別では、60歳代の回収率が最も高く、57.5%となりました。
 居住地別では、登米町が53.4%で最も高い回収率となりました。

【性別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成25年度)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	2,225	44.5	5,000	3,220	64.4	▲ 19.9
男性	2,467	939	38.1	2,420	1,419	58.6	▲ 20.5
女性	2,533	1,217	48.0	2,580	1,712	66.4	▲ 18.4
無回答	—	69	—	—	89	—	—

【年代別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成25年度)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	2,225	44.5	5,000	3,220	64.4	▲ 19.9
10歳代	88	21	23.9	110	49	44.5	▲ 20.6
20歳代	488	125	25.6	557	259	46.5	▲ 20.9
30歳代	670	230	34.3	692	354	51.2	▲ 16.9
40歳代	668	262	39.2	628	371	59.1	▲ 19.9
50歳代	812	396	48.8	874	588	67.3	▲ 18.5
60歳代	1,054	606	57.5	911	719	78.9	▲ 21.4
70歳代	589	293	49.7	675	487	72.1	▲ 22.4
80歳以上	631	231	36.6	553	314	56.8	▲ 20.2
無回答	—	61	—	—	79	—	—

【居住地別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成25年度)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	2,225	44.5	5,000	3,220	64.4	▲ 19.9
迫町	1,271	533	41.9	1,262	679	53.8	▲ 11.9
登米町	296	158	53.4	301	228	75.7	▲ 22.3
東和町	416	182	43.8	428	340	79.4	▲ 35.6
中田町	960	432	45.0	945	553	58.5	▲ 13.5
豊里町	408	161	39.5	405	222	54.8	▲ 15.3
米山町	581	219	37.7	587	351	59.8	▲ 22.1
石越町	321	151	47.0	327	240	73.4	▲ 26.4
南方町	532	236	44.4	524	337	64.3	▲ 19.9
津山町	215	84	39.1	221	182	82.4	▲ 43.3
無回答	—	69	—	—	88	—	—

2 調査結果

問1 生活環境の満足度・重要度

全体としては、前回と比較して満足度は0.03ポイント増加し、重要度は0.01ポイント減少した。

満足度は、「23消防・救急救助体制の充実」の2.84が最も高く、これに「3上水道の推進」が2.83、「15保健・検診サービスの充実」が2.81と続いている。満足度が最も低かったのは「16医療機関の充実」の2.18で、続いて「13雇用対策・起業支援」の2.20、「14観光の振興」の2.21となっている。

前回の調査と比べると、「12工業の振興」が0.10ポイント増加している。一方で、「32バスなどの公共交通機関の充実」が0.03ポイント減少している。

重要度は、「17救急医療体制の充実」の3.79が最も高く、これに「16医療機関の充実」の3.76が続いており、『安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり』分野が上位となっている。重要度が最も低かったのは、「41文化・芸術活動の推進」で2.76だった。続いて「40地域間交流や国際交流の推進」の2.77、「38スポーツ・レクリエーションの振興」の2.86と『豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり』分野となっている。

前回の調査と比べると、「5公園・緑地」、「14観光の振興」が0.05ポイント増加し、「8地球温暖化対策への取り組み」「29居住環境の整備」は0.06ポイント減少している。

※問1については、下の計算式によって、生活環境指標ごとに回答を点数化(加重平均)する。その結果、点数が2.50より高ければ高いほど満足(重要)、2.50より低ければ低いほど、不満(重要ではない)という意見が多いと分析・整理される。

$$\text{点数} = \frac{\text{「満足(重要)」(票数)×4点} + \text{「ある程度満足(やや重要)」(票数)×3点} + \text{「あまり満足(重要)でない」(票数)×2点} + \text{「満足(重要)でない」(票数)×1点}}{\text{「満足(重要)～満足(重要)でない」回答総数(票数)} \quad ※無回答、無効を除く$$

基本方向	事項	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
う る 人 お い の 自 然 が 共 生 ま ち づ く り	1 自然環境の保全	2.72	3.27	2.69	3.24	0.03	0.03
	2 自然環境の活用(又は創造)	2.48	3.14	2.47	3.12	0.01	0.02
	3 上水道の推進	<u>2.83</u>	<u>3.67</u>	<u>2.75</u>	<u>3.67</u>	0.08	0.00
	4 下水道の推進	2.78	3.54	2.69	3.50	<u>0.09</u>	<u>0.04</u>
	5 公園・緑地	2.55	3.12	2.55	3.07	0.00	<u>0.05</u>
	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	2.74	3.44	<u>2.75</u>	3.43	▲0.01	0.01
	7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	2.68	3.50	2.67	3.50	0.01	0.00
	8 地球温暖化対策への取り組み	2.41	3.28	2.35	3.34	0.06	▲0.06
あ 技 を 大 ま ま 生 地 の 恵 み を 活 か す 力 を の こ ら せ る	9 農業の振興	2.46	3.25	2.41	3.28	0.05	▲0.03
	10 林業の振興	2.50	3.07	2.46	3.05	0.04	0.02
	11 商業の振興	2.30	3.19	2.25	3.18	0.05	0.01
	12 工業の振興	2.35	3.36	2.25	3.35	<u>0.10</u>	0.01
	13 雇用対策・起業支援	2.20	3.44	2.15	3.47	0.05	▲0.03
	14 観光の振興	2.21	2.96	2.19	2.91	0.02	<u>0.05</u>
ま ち に 安 心 し て 暮 ら せ る や す ら ぎ の あ る	15 保健・検診サービスの充実	<u>2.81</u>	3.54	<u>2.78</u>	3.54	0.03	0.00
	16 医療機関の充実	2.18	<u>3.76</u>	2.15	<u>3.77</u>	0.03	▲0.01
	17 救急医療体制の充実	2.25	<u>3.79</u>	2.18	<u>3.82</u>	0.07	▲0.03
	18 社会保障の充実	2.41	3.65	2.35	3.63	0.06	0.02
	19 地域福祉の推進	2.43	3.42	2.45	3.42	▲0.02	0.00
	20 児童福祉、子育て支援の充実	2.53	3.56	2.53	3.52	0.00	<u>0.04</u>
	21 高齢者福祉の充実	2.52	3.49	2.52	3.52	0.00	▲0.03
	22 障がい者福祉の充実	2.53	3.39	2.52	3.40	0.01	▲0.01
	23 消防・救急救助体制の充実	<u>2.84</u>	3.50	<u>2.81</u>	3.54	0.03	▲0.04
	24 風水害、地震などの自然災害対策	2.71	3.49	2.62	3.51	<u>0.09</u>	▲0.02
	25 防犯対策の推進	2.57	3.46	2.56	3.46	0.01	0.00
	26 交通安全の推進	2.76	3.35	<u>2.75</u>	3.36	0.01	▲0.01
	27 消費生活の安定と向上	2.55	2.97	2.54	3.02	0.01	▲0.05

基本方向	事 項	今回調査		前回（平成25年度）調査		比 較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
ちせ づる ゆと り の 快 適 に 暮 ら ま	28 計画的な市街地の整備	2.39	3.09	2.36	3.10	0.03	▲0.01
	29 居住環境の整備	2.50	3.22	2.46	3.28	0.04	▲0.06
	30 良好な町並み、景観の形成	2.59	2.94	2.54	2.93	0.05	0.01
	31 道路の整備	2.58	3.26	2.52	3.30	0.06	▲0.04
	32 バスなどの公共交通機関の充実	2.36	3.14	2.39	3.14	▲0.03	0.00
	33 地域情報化の推進	2.57	2.89	2.55	2.94	0.02	▲0.05
ふ れ あ い の ま ち づ く り	34 幼児教育の充実	2.67	3.43	2.68	3.42	▲0.01	0.01
	35 小・中学校教育の充実	2.68	3.55	2.67	3.54	0.01	0.01
	36 小・中学校施設の整備	2.73	3.45	<u>2.75</u>	3.45	▲0.02	0.00
	37 生涯学習の充実	2.65	3.11	2.64	3.12	0.01	▲0.01
	38 スポーツ・レクリエーションの振興	2.73	2.86	2.70	2.90	0.03	▲0.04
	39 青少年の健全育成	2.66	3.12	2.64	3.11	0.02	0.01
	40 地域間交流や国際交流の推進	2.62	2.77	2.59	2.80	0.03	▲0.03
	41 文化・芸術活動の推進	2.71	2.76	2.68	2.76	0.03	0.00
42 文化財等の保護・継承	2.74	2.95	2.74	2.97	0.00	▲0.02	
し た 市 民 の 協 働 の ま ち づ く り	43 市政への市民参加	2.49	3.08	2.50	3.10	▲0.01	▲0.02
	44 市政に関する情報提供	2.72	3.16	2.70	3.19	0.02	▲0.03
	45 男女共同参画社会の推進	2.60	2.88	2.62	2.87	▲0.02	0.01
	46 地域の自治・コミュニティ活動の推進	2.66	2.98	2.66	2.97	0.00	0.01
	47 調和と均衡ある地域の発展	2.57	2.87	2.58	2.90	▲0.01	▲0.03
	48 行財政改革の推進	2.47	3.27	2.47	3.28	0.00	▲0.01
	49 市政運営での連携の推進	2.55	3.23	2.52	3.23	0.03	0.00
基 本 方 向 別 平 均	人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	2.65	3.37	2.62	3.36	0.03	0.01
	大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	2.34	3.21	2.29	3.21	0.05	0.00
	安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	2.54	3.49	2.52	3.50	0.02	▲0.01
	便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	2.50	3.09	2.47	3.12	0.03	▲0.03
	豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	2.69	3.11	2.68	3.12	0.01	▲0.01
	市民の創造力を生かした協働のまちづくり	2.59	3.04	2.59	3.05	0.00	▲0.01
全平均	2.55	3.22	2.53	3.23	0.02	▲0.01	

※表中の下線付き数字は、点数の高い項目(上位3項目)を表している。

◆総合計画に掲げる基本方向別の満足度の目標

まちづくりの基本方向名	平成17年度 調査結果	平成22年度 目標	平成27年度 目標	平成28年度 調査結果
人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	2.59	2.87	3.15	2.65
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	2.28	2.64	3.00	2.34
安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	2.46	2.74	3.02	2.54
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	2.36	2.68	3.00	2.50
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	2.59	2.87	3.15	2.69
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	2.30	2.65	3.00	2.59

(1) 満足度・重要度の順位

●満足度の高かった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	23 消防・救急救助体制の充実 (2.84)	3 上水道の推進 (2.83)	15 保健・検診サービスの充実 (2.81)	4 下水道の推進 (2.78)	26 交通安全の推進 (2.76)
前回	23 消防・救急救助体制の充実 (2.81)	15 保健・検診サービスの充実 (2.78)	26 交通安全の推進 (2.75)	36 小・中学校施設の整備 (2.75)	3 上水道の推進 (2.75)

※満足度が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

●重要度が高かった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	17 救急医療体制の充実 (3.79)	16 医療機関の充実 (3.76)	3 上水道の推進 (3.67)	18 社会保障の充実 (3.65)	20 児童福祉、子育て支援の充実 (3.56)
前回	17 救急医療体制の充実 (3.82)	16 医療機関の充実 (3.77)	3 上水道の推進 (3.67)	18 社会保障の充実 (3.63)	35 小・中学校教育の充実 (3.54)

●満足度点数の上がり幅が大きかった上位5項目

()内はポイント

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	12 工業の振興 (0.10) 【前回2.25→今回2.35】	4 下水道の推進 (0.09) 【前回2.69→今回2.78】	24 風水害、地震などの自然災害対策 (0.09) 【前回2.62→今回2.71】	3 上水道の推進 (0.08) 【前回2.75→今回2.83】	17 救急医療体制の充実 (0.07) 【前回2.18→今回2.25】
前回	36 小・中学校施設の整備 (0.16) 【前回2.59→今回2.75】	24 風水害、地震などの自然災害対策 (0.16) 【前回2.46→今回2.62】	31 道路の整備 (0.14) 【前回2.38→今回2.52】	3 上水道の推進 (0.14) 【前回2.61→今回2.75】	29 居住環境の整備 (0.12) 【前回2.34→今回2.46】

※上がり幅が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

●満足度点数の下がり幅が大きかった上位5項目

()内はポイント

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	32 バスなどの公共交通機関の充実 (▲0.03) 【前回2.39→今回2.36】	19 地域福祉の推進 (▲0.02) 【前回2.45→今回2.43】	45 男女共同参画社会の推進 (▲0.02) 【前回2.62→今回2.60】	36 小・中学校施設の整備 (▲0.02) 【前回2.75→今回2.73】	43 市政への市民参加 (▲0.01) 【前回2.50→今回2.49】
前回	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進 (▲0.05) 【前回2.80→今回2.75】	14 観光の振興 (▲0.05) 【前回2.24→今回2.19】	4 下水道の推進 (▲0.04) 【前回2.73→今回2.69】	26 交通安全の推進 (▲0.03) 【前回2.78→今回2.75】	21 高齢者福祉の充実 (▲0.03) 【前回2.55→今回2.52】

※下がり幅が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

(2) 満足度の分析

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	1 自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・自然緑地・水辺環境の保全 ・森林の公益的機能の維持・増進 ・動植物の保護 	市民生活部(環境課)	2.72	2.69	0.03	自然環境保全や、環境教育事業を推進したことが、増加につながったものと考えられる。	引き続き、産業と共生を図りながら、自然環境保全の推進や、環境教育を推進する。
			産業経済部(産業政策課)				間伐等の適正な森林施策の実施や里山再生事業、市民参加の新たな森林づくり植樹祭の実施により針葉樹や広葉樹の造林を行うなど積極的に健全な森林の育成を図っているためと考えられる。	市有林・私有林共に、各種補助制度を活用して、適正な森林施策を実施し、健全な森林の育成を図る。
	2 自然環境の活用(又は創造)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しめる空間・施設の整備 ・自然を学べる場・機会の創出 	市民生活部(環境課)	2.48	2.47	0.01	環境教育の啓発や、環境教育事業を実施したことが、増加につながったものと考えられる。	サンクチュアリーセンターを環境教育の場として活用し、環境教育・環境学習を推進する。 また、NPOや各種団体などと連携し、自然を学ぶ機会の創出を図る。
			産業経済部(産業政策課)				森林セラピー基地に認定されている登米森林公園等市内森林公園の適正な整備、管理運営を行い、多くの市民に利用されているためと考えられる。	登米森林公園へのアクセス向上を図るため、ふるさと林道登米東線開工工事を実施する。
	3 上水道の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な水道水の供給 ・災害に強い水道水の安定供給 ・水道料金の抑制と効率的な経営 	水道事業所	2.83	2.75	0.08	東日本大震災の教訓をもとに建設していた新田配水池が供用を開始し、下り松ポンプ場も平成30年度供用開始を目標に建設を進めていることに加え、水道事業の基本理念である「市民が安心して暮らせる市の責任による水道事業の確立」に従い、経営資源(人的、物的、資金的)の確保と活用を図る事業経営を行ったことが評価されたと考えられる。	近年、ゲリラ豪雨やかび臭等による原水の水質異常が発生しているが、水安全計画に基づき安全でおいしい水の供給を図るとともに、老朽化した施設の更新や経営状況について、ホームページ等も活用しながら、分かりやすく市民に説明している。 また、施設や工事現場の見学会をととおして水道への理解を深めてもらう。
	4 下水道の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業(公共・農集排・合併浄化槽)の推進 ・し尿の適正な収集、運搬、処理 	市民生活部(衛生センター)	2.78	2.69	0.09	し尿の計画収集を収集カレンダーどおりに行ったこと。臨時収集をほぼ1日以内で終えられたこと。	し尿収集では計画収集を推進し、現状の体制を維持する。
			建設部(下水道課)				東日本大震災の復旧工事も完了し、その後の下水道整備による供用区域の拡大や市設置型浄化槽整備基数を増やした成果が評価されたものと考えられる。	公共下水道事業の早期完了と下水道マンホール周辺や堀山沈下による段差の補修等、市民からの要望に迅速に対応する。
	5 公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や街路樹等の美化、管理 ・地域特性を生かした公園・緑地の整備 ・市民との協働による緑化活動の推進 	市民生活部(子育て支援課)	2.55	2.55	0.00	定期保守点検の実施により、遊具の維持修繕に努め、また、地元へ通常管理を依頼し、衛生環境を保っていたことによるものと考えられる。	遊具の老朽化に対応した計画的な更新と、利用状況に応じた施設の見直しを行っている。
産業経済部(農村整備課)			農村公園は新たな整備や改修を行っていないが、既存施設の適切な維持管理により、利用者ニーズをある程度満たしていると思われる。				農村公園は、地元団体への管理委託を進め、地元(利用者)の意向に合った管理を行ってもらうことで満足度向上を図る。	
建設部(住宅都市整備課)			公園内施設及び樹木等の適切な管理により利用しやすい公園を維持し続けていることが前回と同様である要因と考えられる。				公園内の遊具等の安全点検等を実施するとともに破損箇所等は迅速に修理し、常に利用に適する環境の維持を図る。	
6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・4R活動(ゴミを減らす、再利用する、再資源化する、不要な包装・購入の抑制)の推進 ・分別収集の徹底 ・生ゴミ等堆肥化 ・リサイクルの推進 	市民生活部(環境課)	2.74	2.75	▲0.01	ごみとして収集していたものの中から資源として回収可能な品目を見出し、資源回収によるごみ減量を図っているが、東日本大震災に伴う廃棄物の大量発生及び仮置き期間の長期化の影響が考えられる。	資源リサイクルの取組がごみ減量につながり、循環型社会が形成される仕組みの情報提供機会を増やすほか、資源として回収可能な品目を見出す。	
7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ収集体制の充実 ・ゴミの不法投棄、騒音、水質など公害対策 	市民生活部(環境課、クリーンセンター)	2.68	2.67	0.01	ごみ収集については、種類別に集積所、資源回収ステーション、各戸からの収集を定期的に行っている。 また、環境パトロール等の環境美化推進事業を展開し、不法投棄等の未然防止に努めてきたこと等、市民一人ひとりが住みやすいと感じる生活環境づくりを推進してきたことが要因と考えられる。	資源とごみの分別意識向上のため、小学生のごみ処理施設見学や環境教育事業を推進し、ゴミ処理の適正化に向けた市民の意識を醸成していく。 また、生活環境を維持するため、環境美化推進事業等の公害対策事業を継続し、公害の未然防止に努めていく。	
8 地球温暖化対策への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー・新エネルギーに関する普及啓発 ・エコオフィス運動の推進 ・BDF等クリーンエネルギーの活用 	市民生活部(環境課)	2.41	2.35	0.06	平成28年度から「登米市住宅用新・省エネルギー設備導入支援事業補助金」を実施し、太陽光システム設置事業に加え、定置用リチウムイオン蓄電池、木質バイオマス暖房機器の設置1に対しても補助を行ったことなどが要因と考えられる。	市民の方々に日常生活における電気や燃料の消費やサービス・物品の購入などが二酸化炭素排出の原因となっている事を認識していただき、家庭や職場などで省エネルギーや省資源に配慮した行動を実施することが重要なことから、様々な場面において日常生活において発生する二酸化炭素量の例や登米市の掲げる削減目標、削減方法についてPRを行う。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	9 農業の振興	・農業経営体の強化 ・農業生産の振興・消費の拡大 ・農業関連産業の推進	産業経済部(産業政策課)	2.46	2.41	0.05	農業用機械等の導入時における国の補助事業に平成25年度から4年続けて登米市が採択されており、約170経営体が事業に取り組んでいることから「経営体の強化」の満足度が向上したと思われる。 また、平成26年度から始まった農地中間管理事業により担い手への農地集積が進んでいることも要因と考えられる。	当面は、国の支援策を有効に活用し、できるだけ多くの経営体の強化を図っていく。
			産業経済部(農産園芸畜産課)				水稲分野では、経営所得安定対策による助成が行われていることや米価が維持されて推移してきたことが要因と考えられる。また、畜産分野では、子牛価格が高騰していることから、繁殖農家の経営が維持されていることも要因と考えられる。 さらに、園芸分野においては、各種補助制度により生産などに係る負担が軽減され、農業所得の向上につながったことなどから、満足度が向上したものと考えられる。	国及び県の補助事業の導入を推進するとともに、市単独補助事業などの充実を図るなど、農業者の所得向上に向けた施策に取り組む。
			産業経済部(農村整備課)				ほ場整備率は、県内でも高い整備率となっており、農地集積も推進されていることから、経営体の強化が図られていることも要因と考えられる。	農業経営体を強化しつつ、生産コスト低減を目指したほ場整備に取り組む。
			産業経済部(ブランド戦略室)				環境保全型農業の取組等により、登米産の安全・安心な食材が地域内外の消費者に認知されてきていることと、6次産業化の取組の拡大により農業関連産業の育成が進んでいることが認知されてきているためと考えられる。	地域資源を活用した新規マーケットの開拓、人材育成等を支援するとともに、環境保全型農業と品質管理を高めた生産体制の取組を促進し「登米ブランド」による産地競争力の強化を図る。安全・安心な登米市産農産物の提供について、消費者に対して目に見える形で情報を発信し、定期購入者の確保や多様化する消費者ニーズに対応できる経営体の育成を図る。また、農業を基軸とした新規ビジネスへの取組に対し支援を行うとともに、国の施策とも連携し、農業関連産業の拡大を図る。
	10 林業の振興	・経営の近代化と地域産材の産地形成 ・地域産材、特用林産物の生産性向上と販路の拡大 ・森林の多面的機能の保全	産業経済部(産業政策課)	2.50	2.46	0.04	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施策を実施し、健全な森林の育成を推進していることや里山再生事業による広葉樹林の育成、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を推進するなど、これまでの取組が地域林業の活性化につながっていることが要因として考えられる。	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施策を実施し、健全な森林の育成を推進することや里山再生事業による広葉樹の育成等多様な森林の整備、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を図るなど、地域林業の活性化に向け、川上から川下まで様々な事業に積極的に取り組む。
	11 商業の振興	・事業者への支援体制の強化 ・商店街の活性化	産業経済部(商業観光課)	2.30	2.25	0.05	商工会、商店街との連携、協力により、アドバイザー派遣事業、ビジネスチャンス支援事業、空き店舗活用事業、振興資金融資等の支援施策の周知、活用が高まり、個店・商店街の活力向上とにぎわい創出の活動がなされていることが評価されたものと考ええる。	今後も商業施策の方向性について、商工会、商店街等との意見交換、情報共有を図り、新たな新規事業者の参画に期待しつつ、登米市商工観光振興計画における「魅力ある個店づくり」とにぎわい創出による商業の持続的発展」を基本目標とし、中長期的な指針として同計画における取組を推進していく。
	12 工業の振興	・既存企業や起業者への支援 ・企業誘致の推進	産業経済部(工業振興課)	2.35	2.25	0.10	企業誘致活動による新たな事業所等の立地や既存企業への支援等により増設や移設が増えたことで、地域経済の活性化や雇用機会の創出に繋がっていることが要因と考えられる。	企業誘致の推進については、企業立地セミナーへの参加や、新たな工業団地造成により投資環境の情報提供を行い積極的な企業誘致活動を実施する。 既存企業への支援については、販路開拓や人材の確保・育成の支援による生産活動の強化や、地域企業と産業関連機関等との連携による新たな成長分野等の取組に対して支援を実施する。
	13 雇用対策・起業支援	・雇用機会の確保・創出 ・アグリビジネス等の推進 ・新産業の育成支援	産業経済部(工業振興課)	2.20	2.15	0.05	登米市において、有効求人倍率が前回調査(平成25年度)時の年平均0.80から、今回調査(平成28年度)時の4月から9月までの半年間の平均0.91と上がってきていることから、企業誘致による新たな立地企業や既存企業の増設や移設等により雇用の確保が見込まれるなど、雇用面の環境改善を反映したものと考えられる。	雇用機会の創出を目的として、企業誘致の推進を図るため、企業立地セミナーへの参加や、継続した企業訪問等を行うなど、投資環境提案等の誘致活動を行う。 また、既存企業への支援として、ビジネス商談会の開催による受注機会の拡大、若者等の地元への定着や県内外の大学へ進学した学生等のUターン者をターゲットにした人材確保支援事業の実施による雇用機会の確保など、様々な雇用対策を積極的に行う。
			産業経済部(ブランド戦略室)				新たな産業と雇用創出に繋げる6次産業化の推進や、アグリビジネスの創出を担う人材育成など各種支援を行ったことが要因と考えられる。	今後も継続して6次産業化、起業・創業を行う方に対して、創業時に要する経費や資金調達について支援するなど民間ビジネスの環境整備を行い、新たなビジネスや雇用の創出を図る。
	14 観光の振興	・滞在型観光の推進 ・観光案内機能の強化 ・グリーン・ツーリズム等の推進	産業経済部(商業観光課)	2.21	2.19	0.02	東日本大震災から5年が経過し、観光客数としては震災前水準まで回復しつつある。しかし、団体観光客は減少したままであることから、前回とほぼ同水準の結果になったと考えられる。	滞在交流型観光を推進するため、市内観光素材の掘り起こし及び磨き上げを行うとともに、体験メニューの開発や宿泊先の確保に努める。 また、インバウンド等の着地型観光に向けた取り組みを推進する。

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)	
安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	15	保健・検診サービスの充実	・生活習慣病予防のための健康づくり ・心の健康づくり ・母と子の健康づくり	市民生活部(健康推進課)	2.81	2.78	0.03	検診事業に関しては対象者が絞りがやすく、未検者には再通知などにより、受診機会を多く提供できたことが要因と考えられる。	市民、地域、団体、企業と、地域の健康課題、目的を共有し、協働による事業の推進を図り、実践に結びつく情報提供を行う。
	16	医療機関の充実	・市立病院、民間病院及び診療所間の連携強化	医療局(総務課)	2.18	2.15	0.03	市民病院地域医療連携室が中心となり、開業医等との連携が図られてきたことに加え、地域包括ケアへの取り組みを進め多職種連携による患者さんへのサポート体制の充実が図られてきたことが評価されたものと考えられる。	地域包括ケアシステムへの積極的な参画とともに、開業医や他医療機関との連携を強化し、切れ目のない医療提供体制の確立を図る。
	17	救急医療体制の充実	・休日急患当番医制の充実 ・休日・夜間の24時間対応救急医療体制の充実	市民生活部(健康推進課) 医療局(総務課)	2.25	2.18	0.07	平成28年度に入り、新たに2つの診療所が開設されたことによる体制の充実が要因と考えられる。 医師不足が続く中で、救急医療体制の充実を図るのは困難な状況であるが、平成27年度から東北大学病院からの応援を頂き、毎週日曜日における小児救急への対応を開始したことが評価されたものと考えられる。	石巻市夜間急患センター利用時間の広報紙への掲載。 市立病院で対応できる医療、対応出来ない医療を明確にし、対応が困難な医療については、石巻赤十字病院や大崎市民病院との連携・役割分担によりスムーズな対応が図られよう努める。
	18	社会保障の充実	・国民健康保険制度、後期高齢者医療制度の適正な運用 ・国民年金制度の適正な運用	市民生活部(国保年金課)	2.41	2.35	0.06	国民健康保険や後期高齢者医療の制度の定着と、周知や相談体制の充実が努めたことにより、国民年金保険料の納付等の意識が向上してきたためと考えられる。	医療制度や年金制度の正しい理解が得られるよう周知、啓発に努め、個人個人に対する適正な給付に努める。
	19	地域福祉の推進	・地域全体で支え合う福祉体制の整備 ・地域福祉に関わる組織・人材の育成、強化	市民生活部(生活福祉課)	2.43	2.45	▲0.02	地域コミュニティの希薄化、独居をはじめ高齢世帯の増加など、支える側の人口減が今回の結果に至ったと考えられる。	各種団体と協議の場を設けながら、課題を整理し対応していくことが不可欠とされている。
	20	児童福祉、子育て支援の充実	・保育の充実強化 ・放課後児童対策の充実 ・子育て支援の充実	市民生活部(子育て支援課)	2.53	2.53	0.00	民間保育施設の整備支援を行い、受入枠の拡大を図っているが、入所申込数の増に伴い、待機児童数は横ばいで推移しているためだと考えられる。 また、利用対象を6年生までに拡大した児童クラブにおいては、実施場所の確保を行ったものの、子育て支援センターについては、前回調査時と同様の事業実施のためと考えられる。	老朽化施設の建替と併せて幼保連携型認定こども園を整備し、教育・保育の一体的な提供を図るとともに、職員研修の機会を増やし保育の質の向上を図る。放課後児童クラブでは実施場所の確保と子ども教室との一体的な事業実施を図る。在宅での子育て支援や多様化する保育に必要の利用支援に対応するため、気軽に利用できる子育て支援センターを目指し、相談、支援体制の充実を図る。
	21	高齢者福祉の充実	・介護予防と生きがいづくりの推進 ・高齢者福祉施設の整備 ・高齢者の生活環境の整備	市民生活部(長寿介護課)	2.52	2.52	0.00	介護サービスの充実を図るため、地域密着型特別養護老人ホーム等の整備を推進してきたが、高齢者ニーズは更に多様化しており、生活環境の整備や福祉・介護サービスの向上が求められているものと考えられる。	高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていることができるよう、必要な福祉・介護サービスの充実を図るとともに介護予防のための高齢者の社会参加を推進する。
	22	障がい者福祉の充実	・障がい者福祉サービスの充実 ・自立と就労、地域生活移行への支援 ・家庭への支援と交流の場の確保	市民生活部(生活福祉課)	2.53	2.52	0.01	平成25年4月1日より障害者総合支援法が施行され、障害福祉サービスが充実し、利用者が平成25年度から3年間で、およそ10%伸び、利便性の向上が図られた。一方で、障害者相談支援関係事業の対応が遅れており、複雑化する障害福祉サービスの利用支援が、本来あるべき姿となっていないため、今回の結果に至ったと考えられる。	複雑化する障害福祉サービスを分かりやすく提供できるよう障害者相談支援関係事業を充実させていく。
	23	消防・救急救助体制の充実	・消防団活動の充実 ・消防施設・車両整備、高度救急自動車の配置 ・救急救命士の養成、応急手当の普及啓発	消防本部(消防総務課、警防課)	2.84	2.81	0.03	各出張所が整備されたことや、高規格救急車の全署所への配備等消防行政に対する市民の満足度が上がったものと考えられる。	消防団協力事業所の拡充と消防団員の加入促進を図り、消防団員の増加と定期的な教育訓練で組織的な体制の維持を図り、地域防災の要として、位置付けていく。 また、救急救命士の技能・技術のスキルアップに努め、質の高い救命処置と応急手当の必要性を強く訴えていく。
	24	風水害、地震などの自然災害対策	・防災訓練、防災パトロールの実施 ・自主防災組織の結成、育成・強化 ・治水・砂防・治山対策による自然災害の未然防止	総務部(防災課)	2.71	2.62	0.09	自主防災組織に対し、災害時に有効な活動を展開するための資機材を整備したことや、自主防災組織のリーダーとなる防災指導員が増えたことにより、地域の実情に応じた防災訓練等を積極的に推進していることが要因と考えられる。	各自主防災組織と防災関係機関が連携し、防災指導員の育成や地域における強み、弱みを把握しながら、防災訓練等を通じ、災害時における減災対策に取り組んでいく。
	25	防犯対策の推進	・防犯組織の育成・関係団体との連携 ・防犯施設の整備 ・防犯教育、意識の啓発	市民生活部(市民生活課)	2.57	2.56	0.01	犯罪事案認知件数が減少傾向にあることが要因と考えられる。	関係団体との連携を図り、これまで以上の防犯意識の高揚を啓発活動を通じて実現する。 また、必要な箇所に防犯施設を整備し犯罪の未然防止に努める。
	26	交通安全の推進	・交通安全関係団体との連携、交通安全パトロール ・交通安全施設の整備 ・交通安全教育、意識の啓発	市民生活部(市民生活課)	2.76	2.75	0.01	各交通死亡ゼロ表彰を受賞するなど、交通安全団体等関係機関との綿密な連携により交通事故件数が減少しているため。	関係団体との連携を図り、これまで以上の交通安全意識の高揚を啓発活動を通じて実現する。 また、危険箇所交通安全施設を設置し事故の未然防止に努める。
	27	消費生活の安定と向上	・相談体制の充実 ・消費者問題に関する啓発活動の充実	産業経済部(商業観光課)	2.55	2.54	0.01	消費生活相談員を配置する消費生活相談窓口が、相談実績及び啓発活動により、市民に浸透してきているものと推測する。	住みよいまちづくりの一環として、「安心、安全な消費生活社会の維持、向上」を目指し、引き続き相談業務と啓発活動を通じて、市民目線に立った被害の未然防止と適切な問題解決に努めることにより、市民により身近な問題として捉えていただく。

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)	
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	28	計画的な市街地の整備	・計画的な土地利用の推進 ・都市計画の見直し ・魅力ある中心市街地の整備、再生	建設部(住宅都市整備課)	2.39	2.36	0.03	都市計画マスタープラン及び用途地域による土地利用の誘導によって計画的な土地利用がなされたことが要因と考えられる。	土地利用の現状を把握し、都市計画マスタープランの見直しを行うとともに、用途地域による土地利用の明確化を図る。
	29	居住環境の整備	・公営住宅の整備、維持・改善 ・生活道路や身近な公園、下水道整備 ・耐震診断の実施	建設部(道路課)	2.50	2.46	0.04	きめ細かな道整備事業を継続してきた結果が評価されたものと考えられる。	きめ細かな道整備事業実施要綱に基づき事業の推進に努める。
				建設部(住宅都市整備課)				公営住宅及び定住促進住宅の計画的な改修により住環境の向上と災害公営住宅の整備を行ったことや、公園施設内及び樹木等の適切な管理により利用しやすい環境を整備したことが微増した要因と考えられる。	計画的な改修工事による良好な住環境の維持と老朽化住宅の建替えや集約による住宅困窮者の安心安全な住まいの確保を行う。 公園内の遊具等の安全点検等を実施するとともに破損箇所等は迅速に修理を行い常に利用に適する環境の維持を図る。
				建設部(下水道課)				下水道整備の進捗による接続可能区域の拡大や水洗化人口の増加により生活排水の改善が図られている成果が評価されたものと考えられる。	水洗化率向上のための助成制度見直しや啓蒙活動の推進。
	30	良好な町並み、景観の形成	・地域特性に応じた美しい景観の形成 ・環境美化の推進	建設部(住宅都市整備課)	2.59	2.54	0.05	景観計画を策定し景観形成基準を定めたことにより景観に関する意識の向上と基準によるまちづくりが行われたことが満足度の上昇につながったと考えられる。	景観計画の更なる周知を行うとともに、登米市の景観を守り育てるため、子供達へのPRや景観地区の導入について検討を行う。
	31	道路の整備	・市域の骨格を形成する幹線道路の整備 ・アクセス道路の整備 ・生活関連道路の整備	建設部(道路課)	2.58	2.52	0.06	きめ細かな道整備事業を継続してきたこと、また通常の道路改良事業の進捗を図ってきた結果が評価されたものと考えられる。	国の補助金を有効に活用すると共に、道路改良事業の進捗を図り、きめ細かな道整備事業を継続して実施する。 また、道路評価に基づく整備計画について、新規要望に対する評価を行い、事業の実施計画を毎年度見直しを行う。
	32	バスなどの公共交通機関の充実	・バス交通の充実 ・鉄道利用の利便性向上	企画部(市民協働課)	2.36	2.39	▲0.03	市民バスの運行経路及び運行時間など市民ニーズにできる限り沿って、改正などを行っているが、運行本数が少なかったり、乗り継ぎが不便な部分もあったり、利便性に欠ける部分があったためと思われる。	運行経路、運行時間、運行間隔等に生じている不具合や新しい需要がないかを検証し、委託料の増嵩の抑制を図りつつ、運行経路や運行ダイヤの見直しや、新たな公共交通の在り方を検討していく。
建設部(住宅都市整備課)				市内の公共交通はバスが主流であるが、本数などの運行内容に対して市民の求める要望に対して市の交通施策が住民の一定の満足度まで達していないことが要因であると考えられる。 また、震災後JR気仙沼線が柳津駅までしか利用できなくなったことも要因のひとつと思われる。				都市交通マスタープランの公共交通計画に示す8つの施策の推進。	
33	地域情報化の推進	・情報通信基盤の整備 ・ICT化の推進 ・公共施設間情報ネットワークの構築	企画部(企画政策課)	2.57	2.55	0.02	平成24年12月に市内全域において、光ファイバーによるインターネットサービスの提供が開始され、高速通信環境が向上したことが要因と考えられる。	光ファイバー通信網のみならず、携帯通信の不通地域について通信環境の改善を図る。 また、公衆無線LAN等の新たな通信環境を整備し利便性の向上に取り組む。	
			教育委員会(生涯学習課)				視聴覚センターにおいて、市民の方々や教職員等に対し、パソコンの操作技術講習やICT研修会等を実施し、操作技術向上やタブレットの活用方法等について研修を行っていることが要因と考える。	今後、より一層、ICT化の推進を図るため、講習会や研修会を充実させる。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	34	幼児教育の充実 ・教育内容の充実 ・教育環境の整備、充実	教育委員会(学校教育課)	2.67	2.68	▲0.01	園行事の充実及び保育所型預かり保育や一時保育を拡大したが、なお利用者の立場に立った利用方法を考慮した幼稚園教育への要望があるものとする。	今後も引き続き、幼稚園教育と預かり保育等において、生活体験の充実、課題発見・課題解決能力育成のための遊び学習の実践、小学校との交流学習、教職員の研修の充実を図る。
	35	小・中学校教育の充実 ・小・中学校学習指導の推進 ・生徒指導の充実	教育委員会(学校教育課)	2.68	2.67	0.01	家庭学習の充実を目指した「登米っ子学習」、教師の指導力向上のための研修、教育課題の解決に向けた研究活動等、教育の充実に向けたさまざまな取り組みが市民に認知されてきたものとする。また、学校たより等で学校の情報や取り組みが保護者だけでなく地域の皆さんにも認知されてきたことも要因とする。	児童生徒の学習意識の向上や家庭学習の充実、教師の指導力向上に向けた取り組みをさらに推進する。
	36	小・中学校施設の整備 ・学校教育施設の適正配置 ・学校教育施設の耐震補強、大規模改造	教育委員会(教育総務課)	2.73	2.75	▲0.02	学校再編基本方針が公表され、小規模校が統合されると、多くの学校で通学距離が長くなるなど利便性が低下すると感じたことが要因と考えられる。	市民の意見を十分取り入れて、学校再編を進めていく。
			教育委員会(学校教育課)				耐震補強によって安全確保を図っているものの、建築年数が30年を経過している施設が多いため、快適な学習環境の確保について要望されているものとする。	今後も計画に基づく学校施設の整備に努め、児童生徒が安全に学習活動が行える環境の整備を図る。
	37	生涯学習の充実 ・生涯学習機会の充実 ・生涯学習施設の整備、充実 ・地域における人材の育成	教育委員会(生涯学習課)	2.65	2.64	0.01	社会教育施設の指定管理者制度導入により、自主的な活動が行われたことによるものとする。	地域の課題解決を目指して学習し、その成果として地域が元気になる取り組みを行う。
	38	スポーツ・レクリエーションの振興 ・生涯スポーツの推進 ・競技力の向上事業 ・社会体育施設の管理運営	教育委員会(生涯学習課)	2.73	2.70	0.03	市体育協会及び市内9つの総合型地域スポーツクラブの活動が定着してきたことに加え、各スポーツ大会で東北大会や全国大会等へ出場する団体・個人が増加していることが考えられる。また、社会体育施設において、震災復旧事業が全て終了し、これまで以上に各施設が利用出来るようになったことが要因と考えられる。	スポーツをする、スポーツが出来る環境や施設の整備を図る。また、市民の体力向上、競技力の向上を主眼とした、体育協会及び総合型地域スポーツクラブの拡充、安定を図る。
	39	青少年の健全育成 ・青少年関係団体への支援 ・家庭・地域・学校の連携 ・地域社会で活動する機会の拡大	教育委員会(生涯学習課)	2.66	2.64	0.02	PTA、子ども会育成会やスポーツ少年団など地域の青少年育成団体の活動を支援し、心身共に健康で、豊かな未来に希望をもった青少年育成を推進していることによるものと考えられる。	次代を担う青少年が、自他共にかけがえない存在であることを認識し、また社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加できるよう、家庭・学校・地域が連携して青少年の健全育成を支援する。
	40	地域間交流や国際交流の推進 ・地域間交流の推進 ・国際交流の推進 ・青少年国際交流事業の実施	企画部(市民協働課)	2.62	2.59	0.03	市国際交流協会が実施する日本語講座などの国際交流推進事業や外国人相談窓口設置による市内在住外国人への支援の取り組みについての理解が徐々に得られてきているものと考えられる。	市国際交流協会が実施する国際交流推進事業の継続した支援を行うとともに、情報発信や外国人支援団体との連携を強化し、在住外国人への支援を図る。また、国内外の姉妹都市間の交流を継続し、自治体間相互の連携を図る。
41	文化・芸術活動の推進 ・心を拓く文化・芸術活動の推進 ・文化・芸術施設の充実、整備	教育委員会(生涯学習課)	2.71	2.68	0.03	登米市施行10周年記念イベントや夢フェスタ等で登米祝祭劇場の利用入館者が大幅に増えたことが要因と考えられる。	市民一人ひとりが興味・関心を寄せるような文化・芸術活動を推進し、より幅広い文化・芸術の振興を図る。	
42	文化財等の保護・継承 ・文化財等の保護・継承 ・文化財保護施設の整備	教育委員会(生涯学習課)	2.74	2.74	0.00	「米川の水かぶり」がユネスコ無形文化遺産申請予定等、広く登米市の無形文化財が認知されたことが要因とする。	登米市の歴史・偉人等を広く市民に紹介し、地域の文化財、先人の功績等を知っていただき、登米市民としての誇りを持ってもらう。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H25)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、又は下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	43	市政への市民参加 ・市民だれもがまちづくりに参加しやすい環境の整備	企画部(市民協働課)	2.49	2.50	▲0.01	登米市まちづくり基本条例の制定から4年が経過し、協働による市民主体のまちづくりについて地域コミュニティや市民活動団体における認知度は上がったものの、一般市民への周知が不足したと考えられる。	広報等による情報提供やシンポジウムを通して「登米市まちづくり基本条例」の啓発を図る。
	44	市政に関する情報提供 ・広報・公聴活動の充実 ・情報公開の推進	総務部(市長公室、総務課)	2.72	2.70	0.02	自治体広報活動の柱となる広報紙「広報とめ」を平成27年4月に全面リニューアルし、内容の充実を図ったこと、コミュニティエフエムやフェイスブックを活用した情報発信が、認知されつつあると考えられる。 情報公開制度においては、開示請求者が意図する情報を的確に把握し、できる限り迅速に公開するよう努めたことによるものと考えられる。	広報活動は、広報紙、ホームページ、メール配信サービスやコミュニティエフエムなど、複数の情報発信手段を状況に応じて組み合わせ、より効果的で伝達率の高い広報スタイルを構築していく。 広聴活動は、関係部署との連携を強化し、市長へのメールや提言箱、パブリックコメントなどで寄せられた意見の検証や事務事業の改善などに、より一層取り組んでいく。 保有すべき公文書が存在しないという事態が生じないよう、公文書の管理の徹底を図るため、各課等の文書取扱主任を通じ、関連する例規の規定を遵守するよう周知する。
	45	男女共同参画社会の推進 ・男女共同参画の環境づくり ・男女共同参画の推進	企画部(市民協働課)	2.60	2.62	▲0.02	「だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例」、「第2次登米市男女共同参画基本計画・行動計画」に基づき各種事業を推進してきており、認知度は上がってきているが、古くからの慣習やしきたりなどによる「男性像」「女性像」の意識が今なお根強く残り、認知度と現状に開きが生じたと考えられる。	第3次登米市男女共同参画基本計画、行動計画に定める事業の推進を図り、その実施状況について毎年公表を行う。
	46	地域の自治・コミュニティ活動の推進 ・地域コミュニティ活動の充実 ・个性的で魅力的な地域づくりの支援	企画部(市民協働課)	2.66	2.66	0.00	平成27年度より登米市未来のまちづくり支援事業(一括交付金の創設、集落支援員の設置、集会施設整備事業補助金制度の拡充)を行い、コミュニティ組織や自治会等の活動に対する支援を行った結果、コミュニティ活動が活発化したことが評価されたと考える。	地域の特性を生かした地域づくり事業の充実を図るため、各コミュニティ組織に対する財政的支援に加え、先進事例の情報提供、研修会開催などの支援を行う。
			教育委員会(生涯学習課)				地域づくりの実践活動を主体的に担うコミュニティに対し、基盤強化に向け取り組んだことが要因と考えられる。	市民のまちづくりへの参加・参画の下、これまで以上に市民参加によるまちづくりを推進し、市民主体の活動を支援していく。 地域が自ら決定し活動できるよう、また、コミュニティ活動の活動拠点である公民館等の環境整備に取り組む。
	47	調和と均衡ある地域の発展 ・地域ごとのまちづくりの推進 ・地域審議会の充実	企画部(市民協働課)	2.57	2.58	▲0.01	人口減少に伴い、地域活性化が伸び悩んでいることが要因と考えられる。	地域づくり計画の見直し時期に合わせて、先進事例の情報提供や研修会等を開催するなど、計画の更なる充実を図り、地域の特性を生かした魅力ある地域づくり事業が展開されるよう支援を行う。
	48	行財政改革の推進 ・行政組織の適正化 ・行政サービスの向上 ・効率的な財政運営	企画部(企画政策課)	2.47	2.47	0.00	第2次登米市行財政改革大綱及び同実施計画に基づき、市民とのパートナーシップの確立、行政機能の効率化と職員の意識改革、持続可能な財政基盤の確立に向けた取組の結果と考えられる。	社会情勢の変化による新たな行政課題や多様化する市民ニーズに対応した質の高いきめ細かな行政サービスを提供するため、市民と行政が公共サービスを担う仕組みづくりや事業の選択と集中、経費の節減と自主財源の確保など継続的な行財政改革を進める。
			企画部(財政課)				さらなる行財政改革を推進するため、行財政改革大綱及び実施計画に基づいた取り組みを進めていくことが重要である。	
	49	市政運営での連携の推進 ・市民、地域と行政の円滑な連携	企画部(企画政策課)	2.55	2.52	0.03	農業、健康、福祉、子育て、生活環境、文化、スポーツなど、各分野で行われている協働による取り組みを通して、市民の理解が広がっているためだと考えられる。	市政への市民参加、男女共同参画社会の形成、コミュニティ活動の充実や地域ごとのまちづくりを推進する中で、市民、地域と行政が連携することを意識した事業展開を図る。
企画部(市民協働課)			登米市まちづくり基本条例の基本理念である協働による持続的な登米市の発展を図るため、協働読本の作成や全職員を対象とした協働によるまちづくり職員研修会を開催するなど、協働によるまちづくりの意識啓発を図ったことが要因と考えられる。				研修会やセミナーを通して協働によるまちづくりの意識啓発を図るほか、市民活動に参加できる環境づくりと活動を支援するサポート体制の更なる充実を図る。	

【登米市の暮らしやすさ】

問2 総合的に見て、登米市は暮らしやすいまちですか？

「2 まあまあ暮らしやすい」をあげている回答者が1,308人(回答者全体の58.8%)となり、回答者全体の約6割を占めている。これに「1 暮らしやすい」の452人(同20.3%)、「3 あまり暮らしやすいとはいえない」の339人(同15.2%)が続いている。
 「1 暮らしやすい」と「2 まあまあ暮らしやすい」の回答者の割合は、79.1%となり、回答者全体の約8割を占めている。

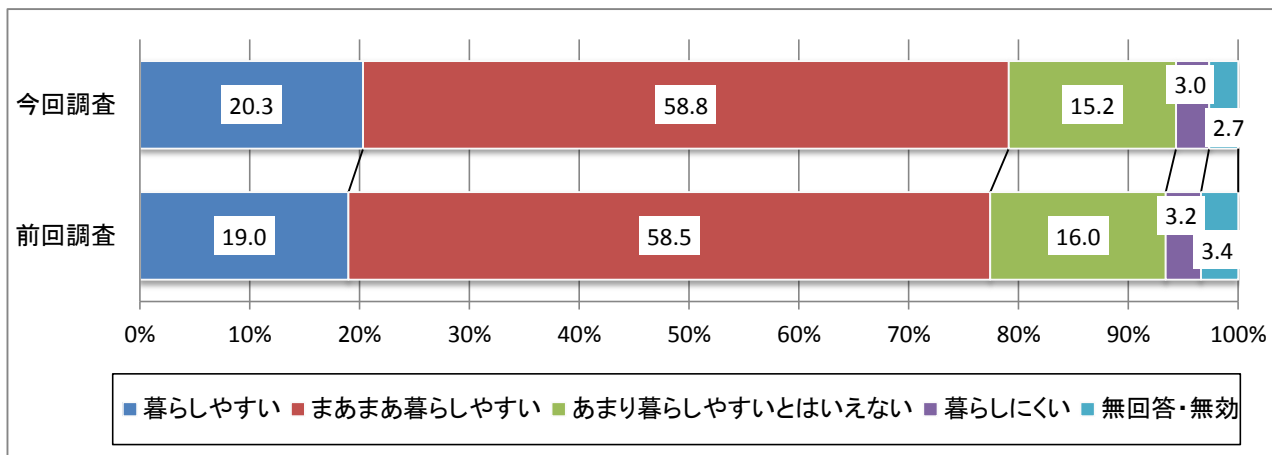
	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 暮らしやすい	<u>452</u>	<u>20.3</u>	<u>611</u>	<u>19.0</u>	▲ 159	1.3
2 まあまあ暮らしやすい	<u>1,308</u>	<u>58.8</u>	<u>1,885</u>	<u>58.5</u>	▲ 577	0.3
3 あまり暮らしやすいとはいえない	<u>339</u>	<u>15.2</u>	<u>514</u>	<u>16.0</u>	▲ 175	▲ 0.8
4 暮らしにくい	67	3.0	102	3.2	▲ 35	▲ 0.2
無回答・無効	59	2.7	108	3.4	▲ 49	▲ 0.7
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0
点数	2.99		2.97		0.02	

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の「点数」は、下式により算出している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。

$$\text{点数} = \frac{\text{「暮らしやすい」(票数)} \times 4 \text{点} + \text{「まあまあ暮らしやすい」(票数)} \times 3 \text{点} + \text{「あまり暮らしやすいとはいえない」(票数)} \times 2 \text{点} + \text{「暮らしにくい」(票数)} \times 1 \text{点}}{\text{回答総数(票数)} \quad \text{※無回答、無効を除く}}$$



【定住意向】

問3 あなたは、今後も現在お住まいの場所に住み続けたいですか？

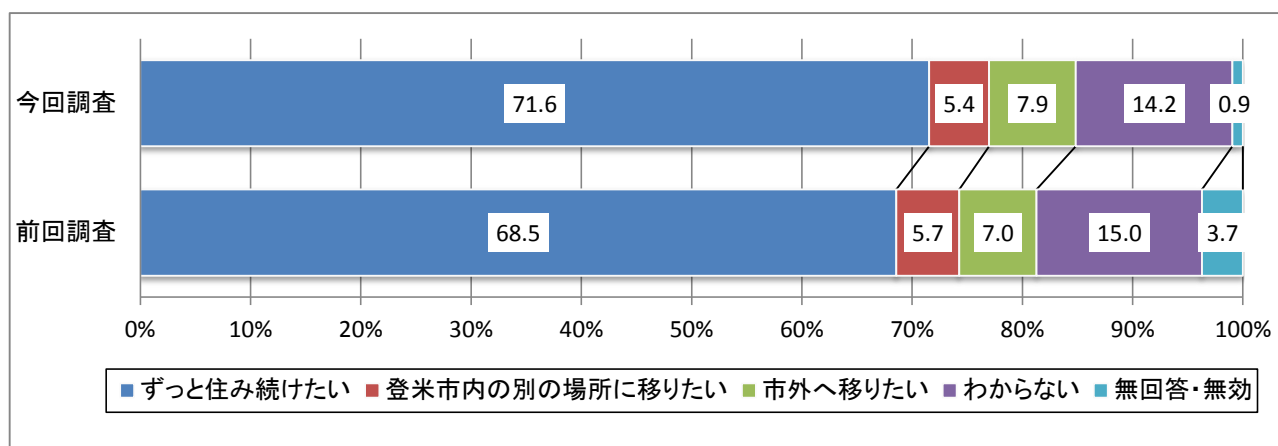
「1 ずっと住み続けたい」をあげている回答者が1,592人(回答者全体の71.6%)となり、これに「4 わからない」の316人(同14.2%)、「3 市外へ移りたい」の175人(同7.9%)、「2 登米市内の別の場所へ移りたい」の121人(同5.4%)が続いている。

前回の調査と比べると、「1 ずっと住み続けたい」をあげている回答者の割合が3.1ポイント増加し、「4 わからない」をあげている回答者の割合は0.8ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 ずっと住み続けたい	<u>1,592</u>	<u>71.6</u>	<u>2,207</u>	<u>68.5</u>	▲ 615.0	3.1
2 登米市内の別の場所に移りたい	121	5.4	184	5.7	▲ 63.0	▲ 0.3
3 市外へ移りたい	<u>175</u>	<u>7.9</u>	<u>226</u>	<u>7.0</u>	▲ 51.0	0.9
4 わからない	<u>316</u>	<u>14.2</u>	<u>483</u>	<u>15.0</u>	▲ 167.0	▲ 0.8
無回答・無効	21	0.9	120	3.7	▲ 99.0	▲ 2.8
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995.0	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【定住したい理由】

問4 問3で「1 ずっと住み続けたい」と回答した方にお聞きます。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

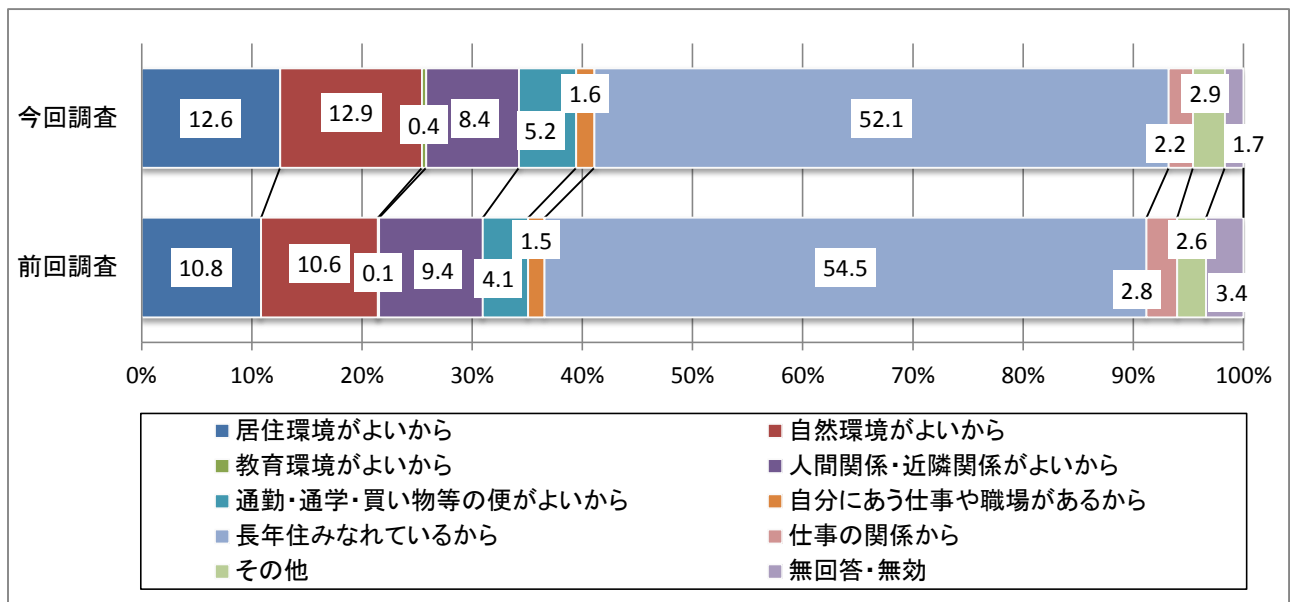
「7 長年住みなれているから」をあげている回答者が830人(回答者全体の52.1%)と最も多く、これに「2 自然環境がよいから」の205人(同12.9%)、「1 居住環境がよいから」の200人(同12.6%)が続いている。

前回の調査と比べると、「2 自然環境がよいから」をあげている回答者の割合が2.3ポイント増加し、「7 長年住みなれているから」をあげている回答者の割合は2.4ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 居住環境がよいから	200	12.6	239	10.8	▲ 39	1.8
2 自然環境がよいから	205	12.9	235	10.6	▲ 30	2.3
3 教育環境がよいから	6	0.4	3	0.1	3	0.3
4 人間関係・近隣関係がよいから	134	8.4	207	9.4	▲ 73	▲ 1.0
5 通勤・通学・買い物等の便がよいから	83	5.2	91	4.1	▲ 8	1.1
6 自分にあう仕事や職場があるから	26	1.6	34	1.5	▲ 8	0.1
7 長年住みなれているから	830	52.1	1,203	54.5	▲ 373	▲ 2.4
8 仕事の関係から	35	2.2	62	2.8	▲ 27	▲ 0.6
9 その他	46	2.9	58	2.6	▲ 12	0.3
無回答・無効	27	1.7	75	3.4	▲ 48	▲ 1.7
計	1,592	100.0	2,207	100.0	▲ 615	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【転居したい理由】

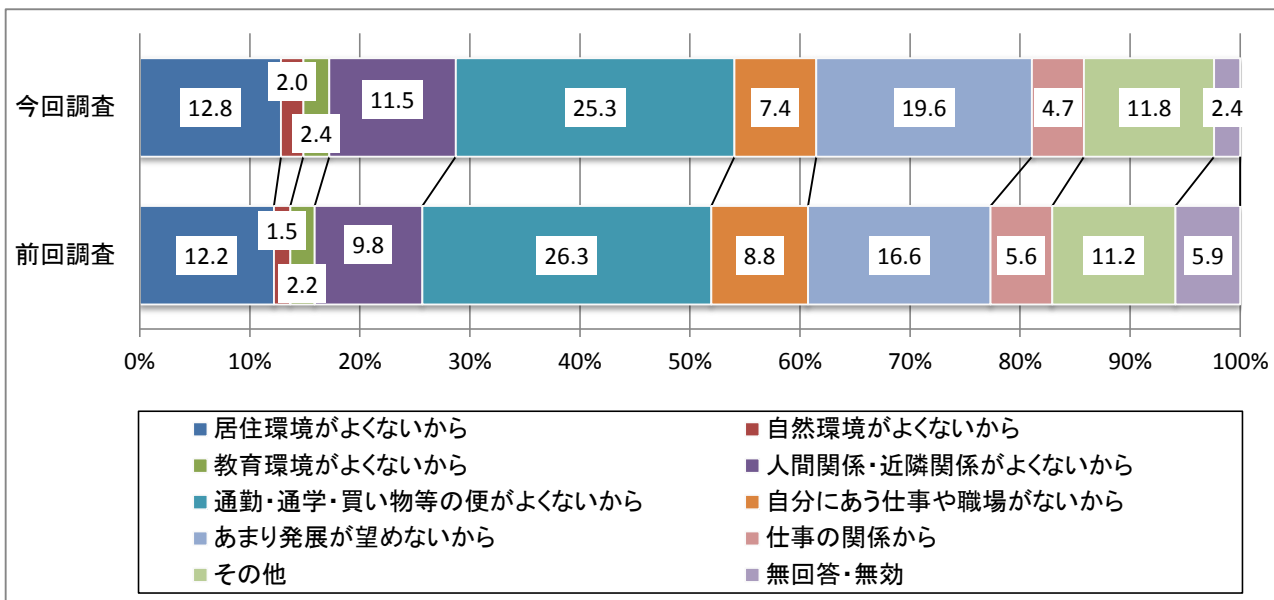
問5 問3で「2 登米市内の別の場所に移りたい」「3 市外へ移りたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

「5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから」をあげている回答者が75人(回答者全体の25.3%)と最も多く、これに「7 あまり発展が望めないから」の58人(同19.6%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「7 あまり発展が望めないから」をあげている回答者の割合が3.0ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 居住環境がよくないから	38	12.8	50	12.2	▲ 12	0.6
2 自然環境がよくないから	6	2.0	6	1.5	0	0.5
3 教育環境がよくないから	7	2.4	9	2.2	▲ 2	0.2
4 人間関係・近隣関係がよくないから	34	11.5	40	9.8	▲ 6	1.7
5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから	75	25.3	108	26.3	▲ 33	▲ 1.0
6 自分にあう仕事や職場がないから	22	7.4	36	8.8	▲ 14	▲ 1.4
7 あまり発展が望めないから	58	19.6	68	16.6	▲ 10	3.0
8 仕事の関係から	14	4.7	23	5.6	▲ 9	▲ 0.9
9 その他	35	11.8	46	11.2	▲ 11	0.6
無回答・無効	7	2.4	24	5.9	▲ 17	▲ 3.5
計	296	100.0	410	100.0	▲ 114	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【登米市の将来イメージ】

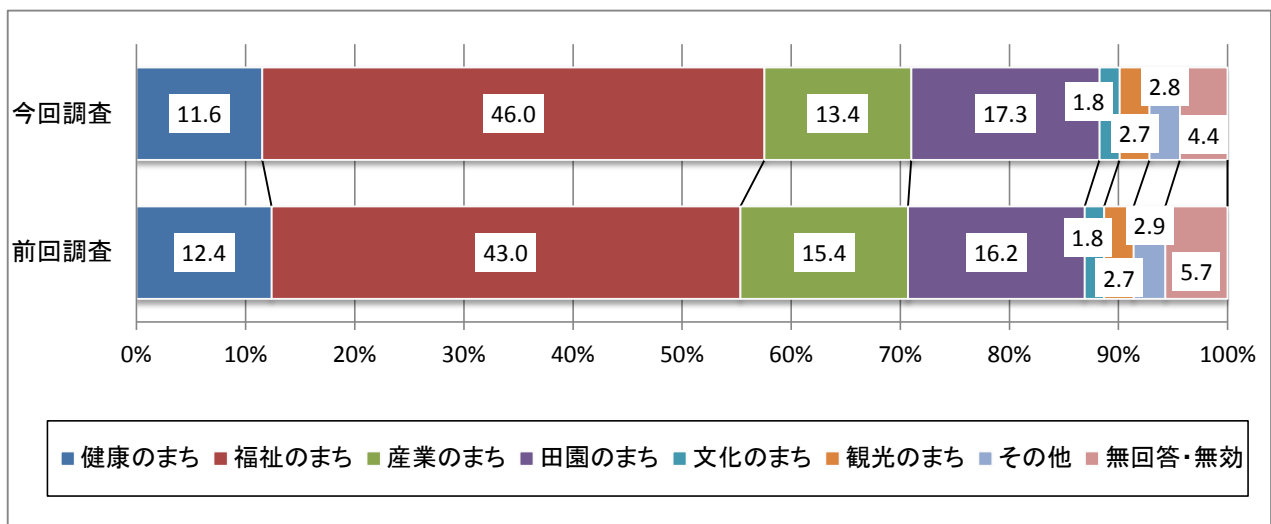
問6 あなたは登米市の将来イメージとして次のどれが最も望ましいと思いますか？

「2 福祉のまち」をあげている回答者が1,024人(回答者全体の46.0%)と最も多く、これに「4 田園のまち」の384人(同17.3%)、「3 産業のまち」の299人(同13.4%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「2 福祉のまち」をあげている回答者の割合が3.0ポイント増加し、「3 産業のまち」をあげている回答者の割合は2.0ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 健康のまち	257	11.6	398	12.4	▲ 141.0	▲ 0.8
2 福祉のまち	<u>1,024</u>	<u>46.0</u>	<u>1,385</u>	<u>43.0</u>	▲ 361.0	3.0
3 産業のまち	<u>299</u>	<u>13.4</u>	<u>495</u>	<u>15.4</u>	▲ 196.0	▲ 2.0
4 田園のまち	<u>384</u>	<u>17.3</u>	<u>522</u>	<u>16.2</u>	▲ 138.0	1.1
5 文化のまち	41	1.8	58	1.8	▲ 17.0	0.0
6 観光のまち	61	2.7	87	2.7	▲ 26.0	0.0
7 その他	62	2.8	92	2.9	▲ 30.0	▲ 0.1
無回答・無効	97	4.4	183	5.7	▲ 86.0	▲ 1.3
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995.0	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【登米市の強み(誇れるもの、他の市町村に負けていないと思うもの) ※3項目まで選択】

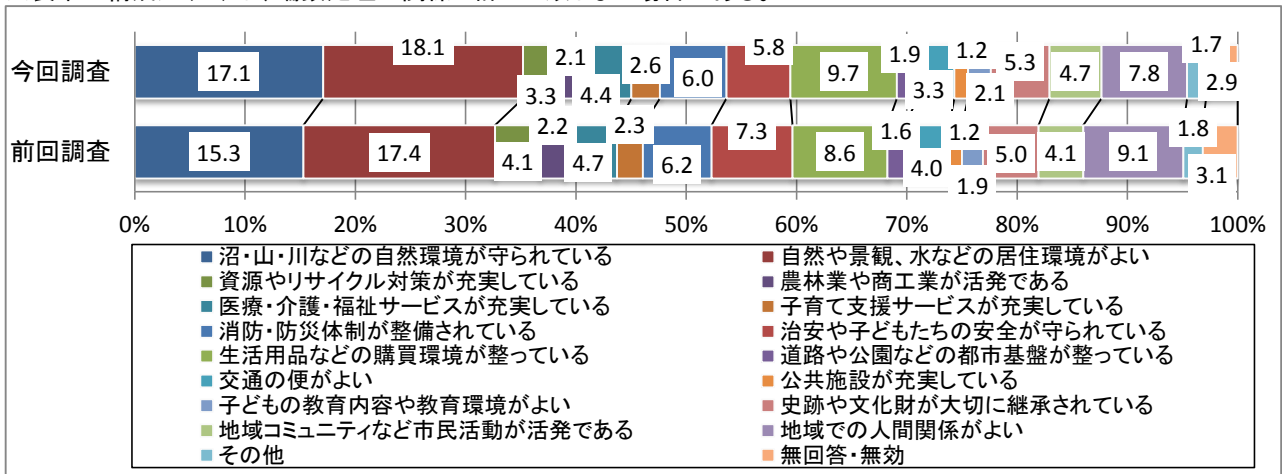
問7 登米市の強みは何だと思いますか？

「2 自然や景観、水などの居住環境がよい」をあげている回答者が950人(回答者全体の18.1%)と最も多く、これに「1 沼・山・川などの自然環境が守られている」の895人(同17.1%)、「9 生活用品などの購買環境が整っている」の506人(同9.7%)が続いている。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 沼・山・川などの自然環境が守られている	<u>895</u>	<u>17.1</u>	1,139	15.3	▲ 244	1.8
2 自然や景観、水などの居住環境がよい	<u>950</u>	<u>18.1</u>	1,294	17.4	▲ 344	0.7
3 資源やリサイクル対策が充実している	171	3.3	307	4.1	▲ 136	▲ 0.8
4 農林業や商工業が活発である	111	2.1	166	2.2	▲ 55	▲ 0.1
5 医療・介護・福祉サービスが充実している	233	4.4	350	4.7	▲ 117	▲ 0.3
6 子育て支援サービスが充実している	135	2.6	175	2.3	▲ 40	0.3
7 消防・防災体制が整備されている	316	6.0	465	6.2	▲ 149	▲ 0.2
8 治安や子どもたちの安全が守られている	304	5.8	546	7.3	▲ 242	▲ 1.5
9 生活用品などの購買環境が整っている	<u>506</u>	<u>9.7</u>	641	8.6	▲ 135	1.1
10 道路や公園などの都市基盤が整っている	100	1.9	116	1.6	▲ 16	0.3
11 交通の便がよい	173	3.3	300	4.0	▲ 127	▲ 0.7
12 公共施設が充実している	65	1.2	88	1.2	▲ 23	0.0
13 子どもの教育内容や教育環境がよい	108	2.1	141	1.9	▲ 33	0.2
14 史跡や文化財が大切に継承されている	279	5.3	375	5.0	▲ 96	0.3
15 地域コミュニティなど市民活動が活発である	247	4.7	303	4.1	▲ 56	0.6
16 地域での人間関係がよい	407	7.8	676	9.1	▲ 269	▲ 1.3
17 その他	90	1.7	132	1.8	▲ 42	▲ 0.1
無回答・無効	150	2.9	234	3.1	▲ 84	▲ 0.2
計	5,240	100.0	7,448	100.0	▲ 2,208	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



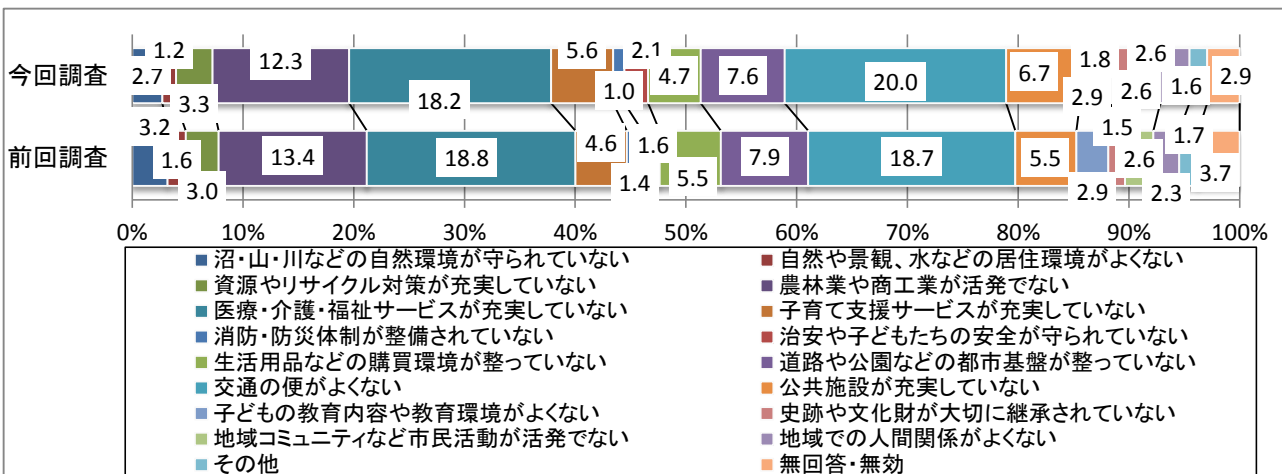
【登米市の弱み(まちの問題点、他の市町村より劣っていると思うもの) ※3項目まで選択】

問8 登米市の弱みは何だと思いますか？

「11 交通の便がよくない」をあげている回答者が1,058人(回答者全体の20.0%)と最も多く、これに「5 医療・介護・福祉サービスが充実していない」の964人(同18.2%)「4 農林業や商工業が活発でない」の652人(同12.3%)が続いている。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 沼・山・川などの自然環境が守られていない	143	2.7	241	3.2	▲ 98	▲ 0.5
2 自然や景観、水などの居住環境がよくない	66	1.2	123	1.6	▲ 57	▲ 0.4
3 資源やリサイクル対策が充実していない	175	3.3	224	3.0	▲ 49	0.3
4 農林業や商工業が活発でない	<u>652</u>	<u>12.3</u>	1,010	13.4	▲ 358	▲ 1.1
5 医療・介護・福祉サービスが充実していない	<u>964</u>	<u>18.2</u>	1,421	18.8	▲ 457	▲ 0.6
6 子育て支援サービスが充実していない	297	5.6	350	4.6	▲ 53	1.0
7 消防・防災体制が整備されていない	54	1.0	105	1.4	▲ 51	▲ 0.4
8 治安や子どもたちの安全が守られていない	113	2.1	118	1.6	▲ 5	0.5
9 生活用品などの購買環境が整っていない	251	4.7	418	5.5	▲ 167	▲ 0.8
10 道路や公園などの都市基盤が整っていない	401	7.6	595	7.9	▲ 194	▲ 0.3
11 交通の便がよくない	<u>1,058</u>	<u>20.0</u>	1,411	18.7	▲ 353	1.3
12 公共施設が充実していない	352	6.7	415	5.5	▲ 63	1.2
13 子どもの教育内容や教育環境がよくない	151	2.9	218	2.9	▲ 67	▲ 0.0
14 史跡や文化財が大切に継承されていない	95	1.8	114	1.5	▲ 19	0.3
15 地域コミュニティなど市民活動が活発でない	138	2.6	194	2.6	▲ 56	0.0
16 地域での人間関係がよくない	139	2.6	175	2.3	▲ 36	0.3
17 その他	85	1.6	131	1.7	▲ 46	▲ 0.1
無回答・無効	155	2.9	281	3.7	▲ 126	▲ 0.8
計	5,289	100.0	7,544	100.0	▲ 2,255	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【地域発展に向けた重点施策】

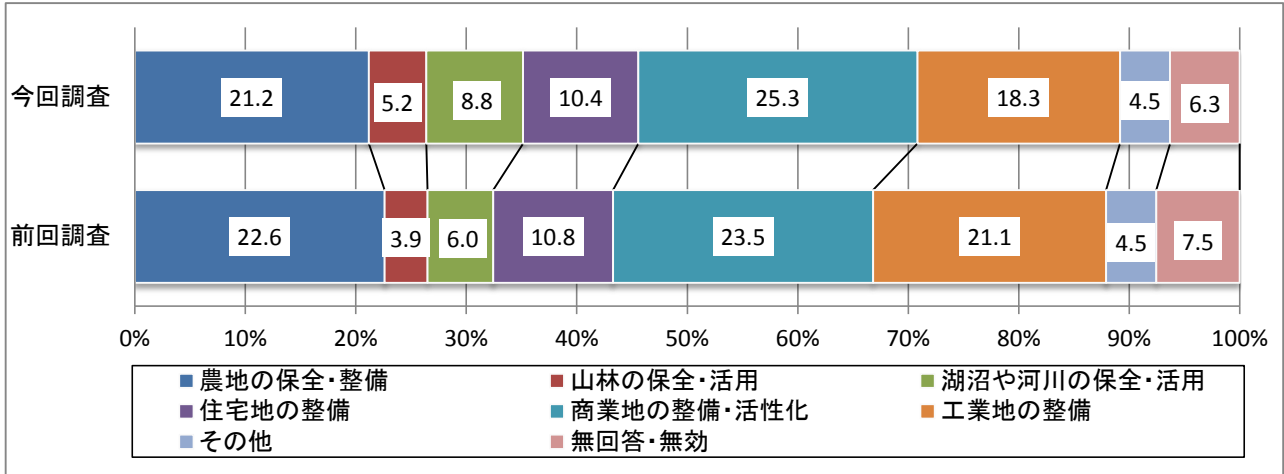
問9 登米市の発展に向けて、今後、何を最も重点的に進めていくべきだと思いますか？

「5 商業地の整備・活性化」をあげている回答者が562人(回答者全体の25.3%)と最も多く、これに「1 農地の保全・整備」の471人(同21.2%)、「6 工業地の整備」の408人(同18.3%)が続いている。前回の調査と比べると、「3 湖沼や河川の保全・活用」をあげている回答者の割合が2.8ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 農地の保全・整備	471	21.2	728	22.6	▲ 257	▲ 1.4
2 山林の保全・活用	116	5.2	125	3.9	▲ 9	1.3
3 湖沼や河川の保全・活用	195	8.8	192	6.0	3	2.8
4 住宅地の整備	232	10.4	349	10.8	▲ 117	▲ 0.4
5 商業地の整備・活性化	562	25.3	758	23.5	▲ 196	1.8
6 工業地の整備	408	18.3	679	21.1	▲ 271	▲ 2.8
7 その他	101	4.5	146	4.5	▲ 45	0.0
無回答・無効	140	6.3	243	7.5	▲ 103	▲ 1.2
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【都市整備や市街地開発の方向】

問10 今後の都市整備や市街地の開発は、どのように考えていくべきだと思いますか？

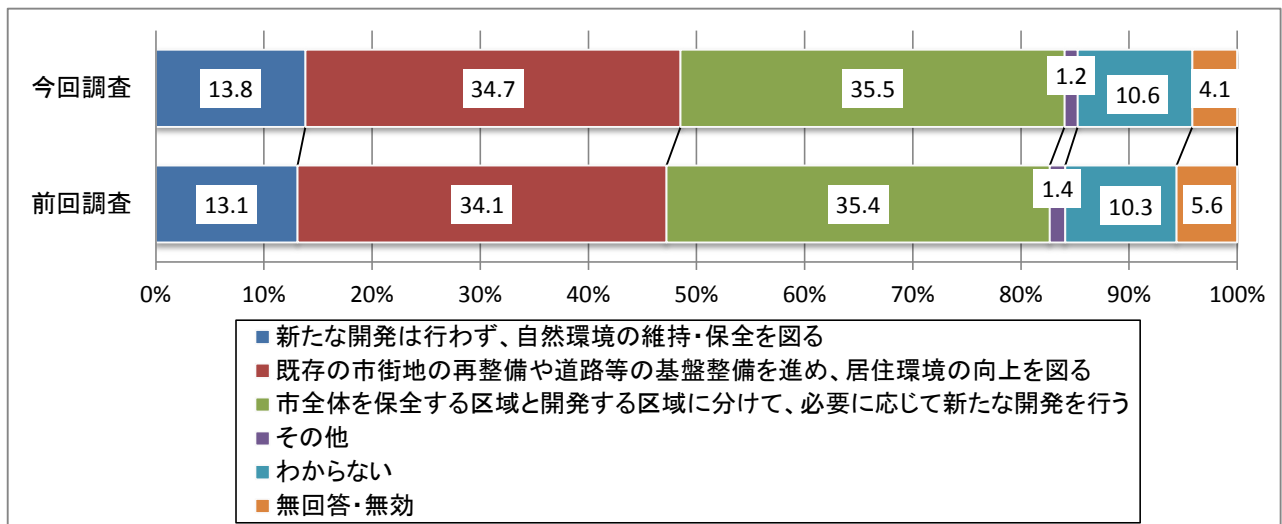
「3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う」をあげている回答者が790人(回答者全体の35.5%)と最も多く、次いで「2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る」が772人(同34.7%)となっている。

前回の調査と比べると、「1 新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る」をあげている回答者の割合が0.7ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る	<u>308</u>	<u>13.8</u>	<u>422</u>	<u>13.1</u>	▲ 114	0.7
2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る	<u>772</u>	<u>34.7</u>	<u>1,099</u>	<u>34.1</u>	▲ 327	0.6
3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う	<u>790</u>	<u>35.5</u>	<u>1,141</u>	<u>35.4</u>	▲ 351	0.1
4 その他	27	1.2	46	1.4	▲ 19	▲ 0.2
5 わからない	236	10.6	332	10.3	▲ 96	0.3
無回答・無効	92	4.1	180	5.6	▲ 88	▲ 1.5
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【農地のあり方】

問11 将来の農地(田・畑)のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

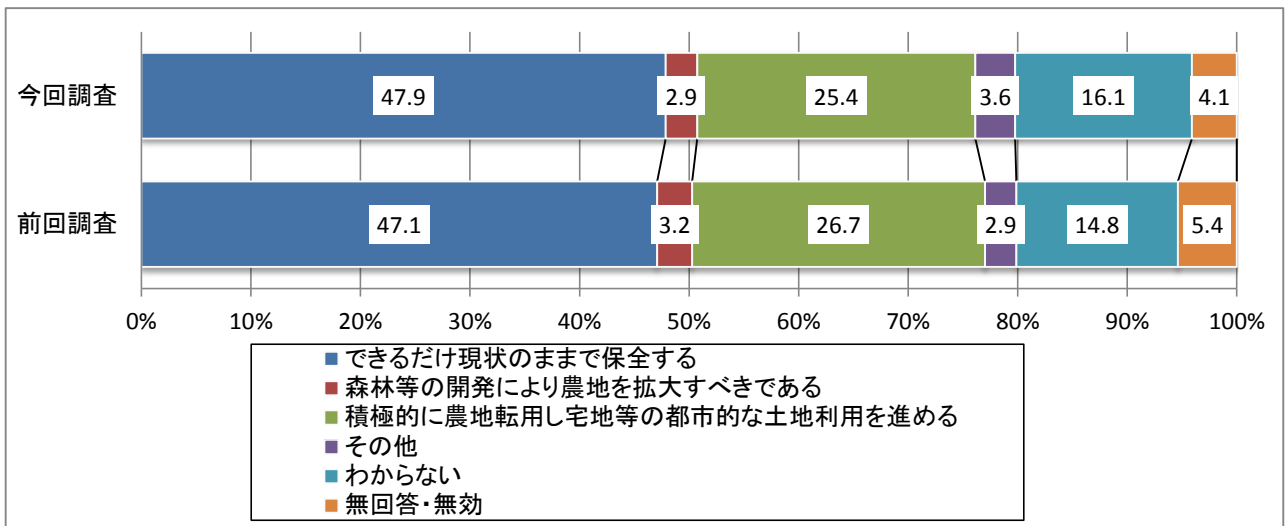
「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が1,065人(回答者全体の47.9%)と回答者全体の約半数を占めている。これに「3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」の565人(同25.4%)が続いており、「2 森林等の開発により農地を拡大すべきである」は64人(同2.9%)に止まっている。

前回の調査と比べると、「3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」をあげている回答者の割合は、1.3ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 できるだけ現状のままで保全する	<u>1,065</u>	<u>47.9</u>	<u>1,516</u>	<u>47.1</u>	▲ 451	0.8
2 森林等の開発により農地を拡大すべきである	64	2.9	103	3.2	▲ 39	▲ 0.3
3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める	<u>565</u>	<u>25.4</u>	<u>861</u>	<u>26.7</u>	▲ 296	▲ 1.3
4 その他	81	3.6	92	2.9	▲ 11	0.7
5 わからない	<u>359</u>	<u>16.1</u>	<u>475</u>	<u>14.8</u>	▲ 116	1.3
無回答・無効	91	4.1	173	5.4	▲ 82	▲ 1.3
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【山林のあり方】

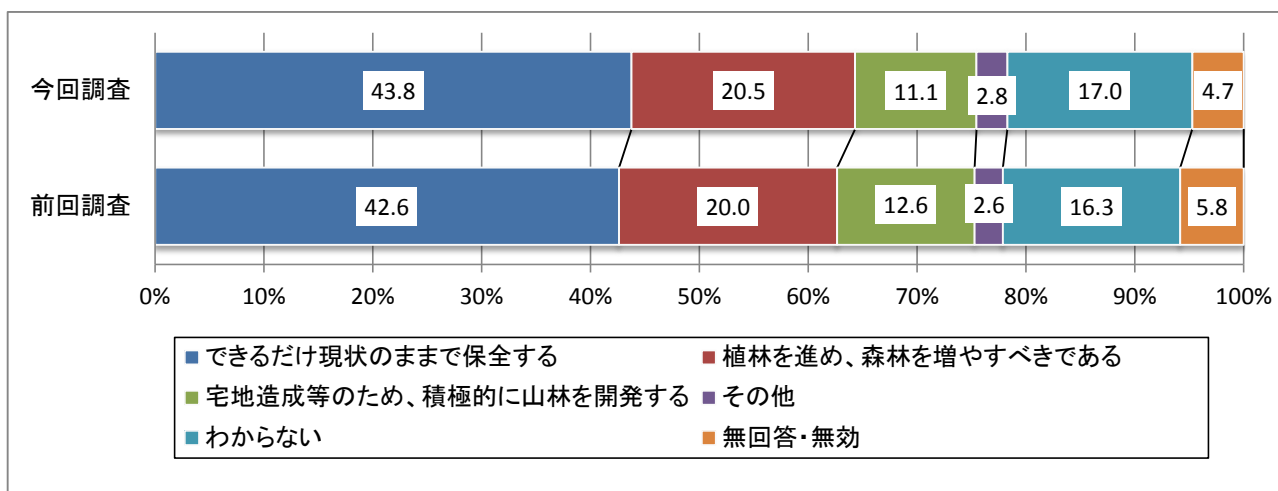
問12 将来の山林のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が974人(回答者全体の43.8%)と最も多く、これに「2 植林を進め、森林を増やすべきである」の457人(同20.5%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者の割合が1.2ポイント増加し、「3 宅地造成等のため、積極的に山林を開発する」をあげている回答者の割合は1.5ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 できるだけ現状のままで保全する	<u>974</u>	<u>43.8</u>	<u>1,372</u>	<u>42.6</u>	▲ 398	1.2
2 植林を進め、森林を増やすべきである	<u>457</u>	<u>20.5</u>	<u>645</u>	<u>20.0</u>	▲ 188	0.5
3 宅地造成等のため、積極的に山林を開発する	248	11.1	407	12.6	▲ 159	▲ 1.5
4 その他	63	2.8	84	2.6	▲ 21	0.2
5 わからない	<u>378</u>	<u>17.0</u>	<u>524</u>	<u>16.3</u>	▲ 146	0.7
無回答・無効	105	4.7	188	5.8	▲ 83	▲ 1.1
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【住宅地のあり方】

問13 将来の住宅地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

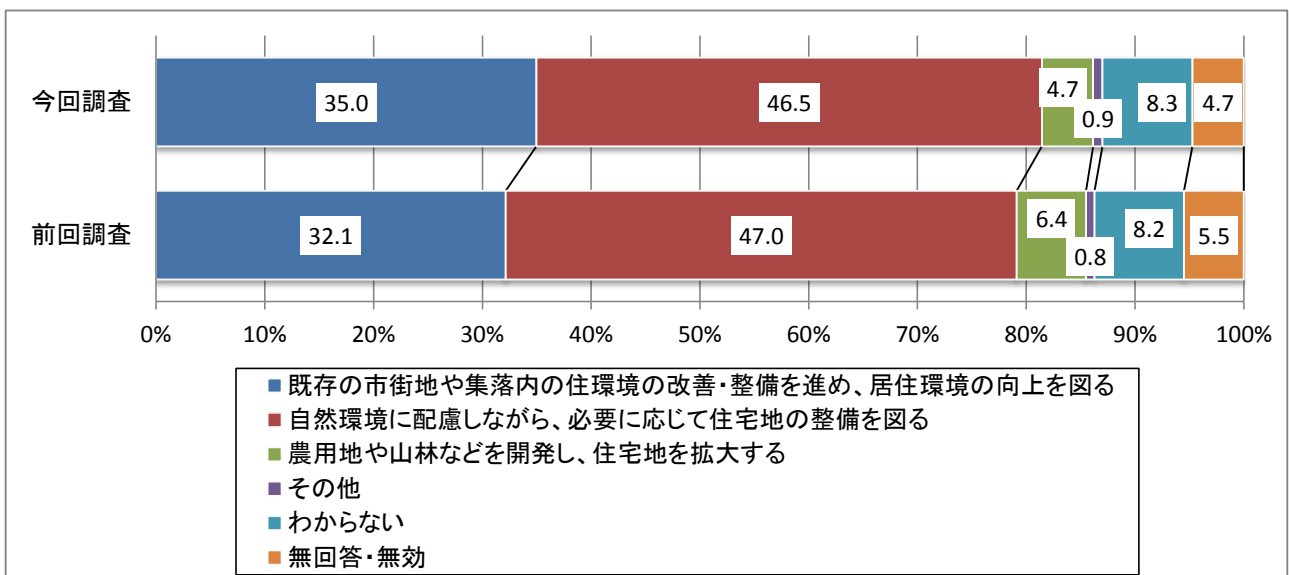
「2 自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る」をあげている回答者が1,034人(回答者全体の46.5%)と最も多く、これに「1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の向上を図る」の778人(同35.0%)が続いている。

前回の調査と比べると、「1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の向上を図る」を挙げている回答者の割合が2.9ポイント増加し、「3 農用地や山林などを開発し、住宅地を拡大する」をあげている回答者の割合は1.7ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の向上を図る	<u>778</u>	<u>35.0</u>	<u>1,035</u>	<u>32.1</u>	▲ 257	2.9
2 自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る	<u>1,034</u>	<u>46.5</u>	<u>1,513</u>	<u>47.0</u>	▲ 479	▲ 0.5
3 農用地や山林などを開発し、住宅地を拡大する	105	4.7	205	6.4	▲ 100	▲ 1.7
4 その他	19	0.9	25	0.8	▲ 6	0.1
5 わからない	<u>184</u>	<u>8.3</u>	<u>265</u>	<u>8.2</u>	▲ 81	0.1
無回答・無効	105	4.7	177	5.5	▲ 72	▲ 0.8
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【商業地のあり方】

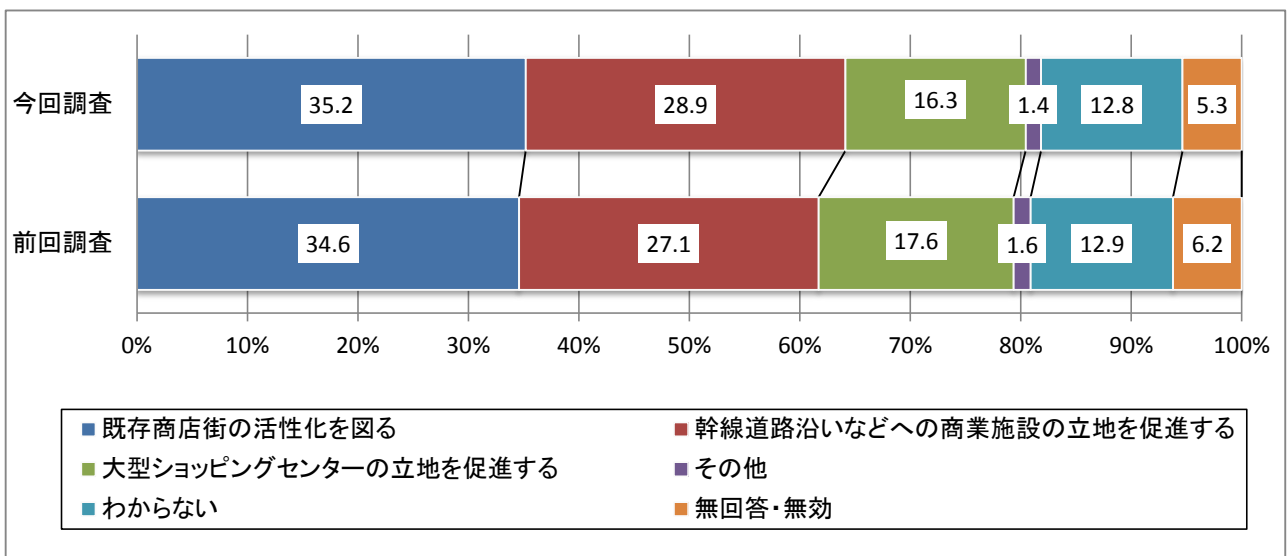
問14 将来の商業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「1 既存商店街の活性化を図る」をあげている回答者が783人(回答者全体の35.2%)と最も多く、これに「2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する」の644人(同28.9%)が続いている。前回の調査と比べると、「2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する」をあげている回答者の割合が1.8ポイント増加し、「3 大型ショッピングセンターの立地を促進する」をあげている回答者の割合は1.3ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存商店街の活性化を図る	<u>783</u>	<u>35.2</u>	<u>1,114</u>	<u>34.6</u>	▲ 331	0.6
2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する	<u>644</u>	<u>28.9</u>	<u>873</u>	<u>27.1</u>	▲ 229	1.8
3 大型ショッピングセンターの立地を促進する	<u>363</u>	<u>16.3</u>	<u>568</u>	<u>17.6</u>	▲ 205	▲ 1.3
4 その他	31	1.4	50	1.6	▲ 19	▲ 0.2
5 わからない	285	12.8	415	12.9	▲ 130	▲ 0.1
無回答・無効	119	5.3	200	6.2	▲ 81	▲ 0.9
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【工業地のあり方】

問15 将来の工業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

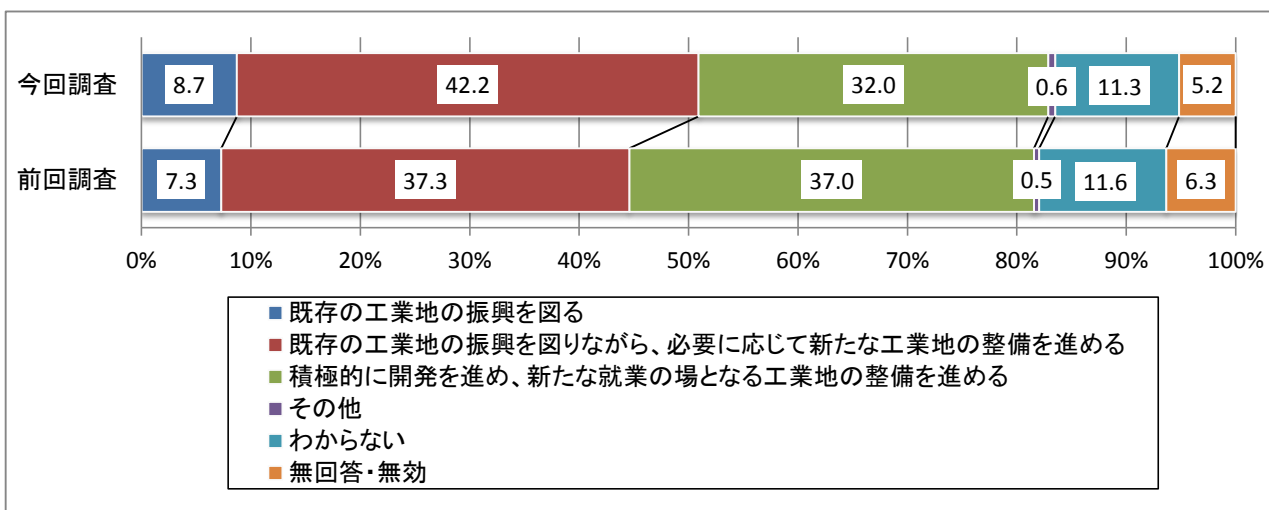
「2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」をあげている回答者が939人(回答者全体の42.2%)と最も多く、続いて、「3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める」の711人(同32.0%)が続いている。

前回の調査と比べると、「2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」をあげている回答者の割合が4.9ポイント増加し、「3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める」をあげている回答者の割合は5.0ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存の工業地の振興を図る	194	8.7	235	7.3	▲ 41	1.4
2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める	<u>939</u>	<u>42.2</u>	<u>1,201</u>	<u>37.3</u>	▲ 262	4.9
3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める	<u>711</u>	<u>32.0</u>	<u>1,191</u>	<u>37.0</u>	▲ 480	▲ 5.0
4 その他	14	0.6	15	0.5	▲ 1	0.1
5 わからない	<u>252</u>	<u>11.3</u>	<u>374</u>	<u>11.6</u>	▲ 122	▲ 0.3
無回答・無効	<u>115</u>	5.2	204	6.3	▲ 89	▲ 1.1
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



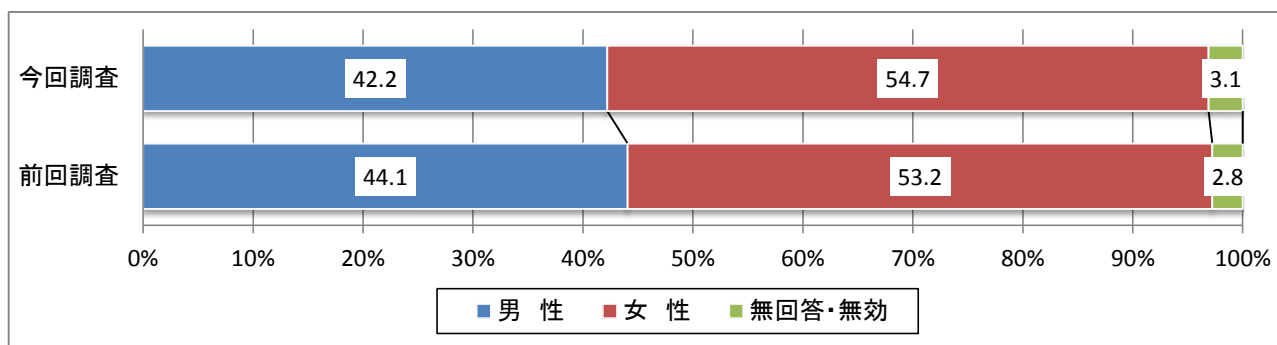
【性別】

問16 あなたの性別は？

「1 男性」の回答者が939人(回答者全体の42.2%)、「2 女性」の回答者が1,217人(同54.7%)で、女性の回答者が男性の回答者よりも278人多くなっている。
 前回の調査と比べると、女性の回答割合が1.5ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 男性	939	42.2	1,419	44.1	▲ 480	▲ 1.9
2 女性	1,217	54.7	1,712	53.2	▲ 495	1.5
無回答・無効	69	3.1	89	2.8	▲ 20	0.3
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【年代】

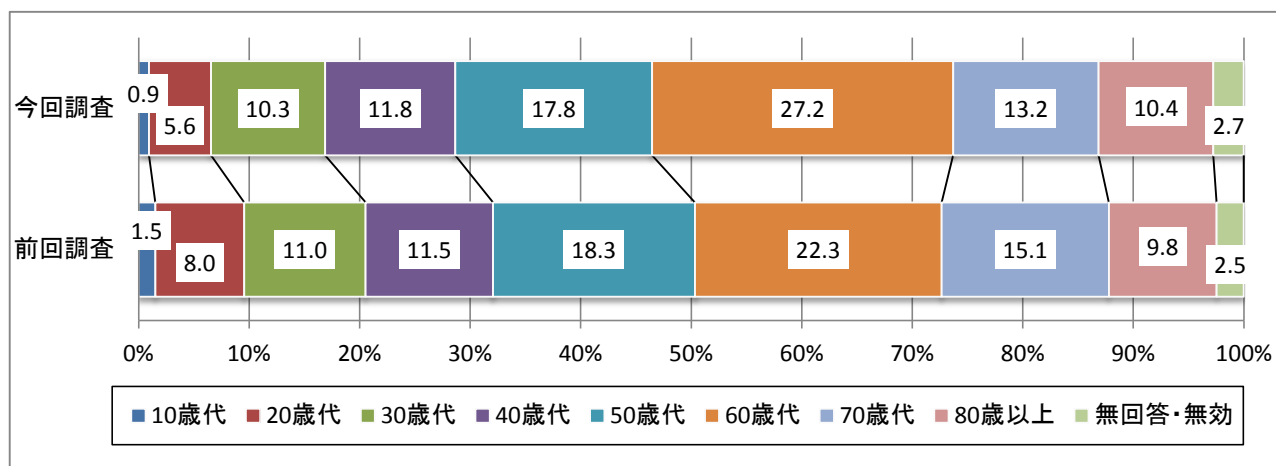
問17 あなたの年齢は？

「60歳代」の回答者が606人(回答者全体の27.2%)と最も多く、これに「50歳代」の396人(同17.8%)、「70歳代」の293人(同13.2%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「60歳代」の回答者の割合が4.9ポイント増加し、「20歳代」の回答者の割合は2.4ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 10歳代	21	0.9	49	1.5	▲ 28	▲ 0.6
2 20歳代	125	5.6	259	8.0	▲ 134	▲ 2.4
3 30歳代	230	10.3	354	11.0	▲ 124	▲ 0.7
4 40歳代	262	11.8	371	11.5	▲ 109	0.3
5 50歳代	<u>396</u>	<u>17.8</u>	<u>588</u>	<u>18.3</u>	▲ 192	▲ 0.5
6 60歳代	<u>606</u>	<u>27.2</u>	<u>719</u>	<u>22.3</u>	▲ 113	4.9
7 70歳代	<u>293</u>	<u>13.2</u>	<u>487</u>	<u>15.1</u>	▲ 194	▲ 1.9
8 80歳以上	231	10.4	314	9.8	▲ 83	0.6
無回答・無効	61	2.7	79	2.5	▲ 18	0.2
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【居住地】

問18 あなたの住んでいる地区は？

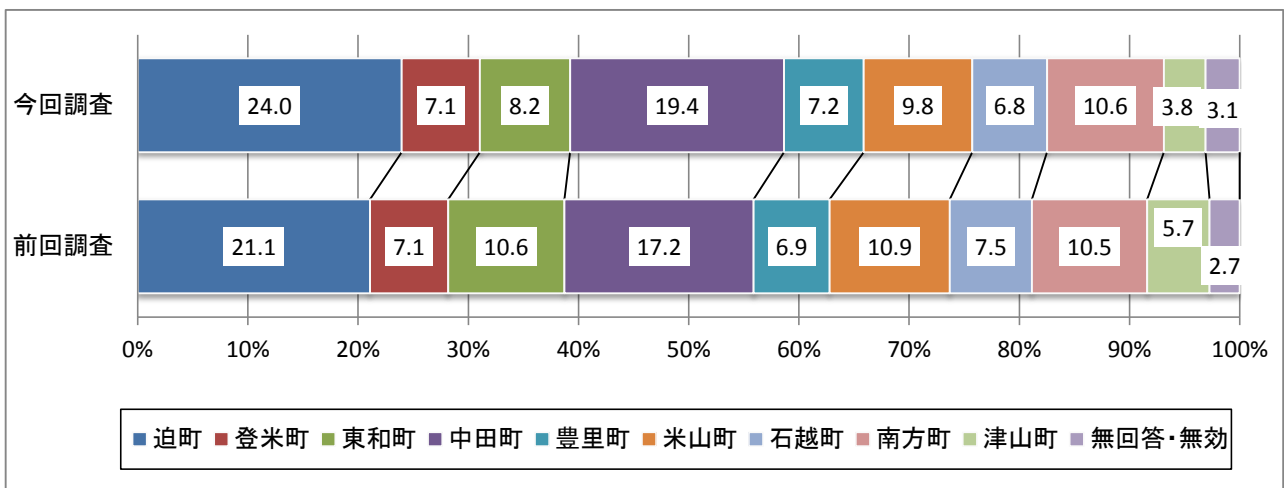
「1 迫町」の回答者が533人(回答者全体の24.0%)と最も多く、これに「4 中田町」の432人(同19.4%)、「8 南方町」の236人(同10.6%)が続いている。(旧町域の人口分布比率より調査票を配付することとなったため、おおむね配付比率に類同した回収結果となっている。)

前回の調査と比べると、「1 迫町」の回答者の割合が2.9ポイント増加し、「3 東和町」の回答者の割合は2.4ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 迫町	<u>533</u>	<u>24.0</u>	<u>679</u>	<u>21.1</u>	▲ 146	2.9
2 登米町	158	7.1	228	7.1	▲ 70	0.0
3 東和町	182	8.2	340	10.6	▲ 158	▲ 2.4
4 中田町	<u>432</u>	<u>19.4</u>	<u>553</u>	<u>17.2</u>	▲ 121	2.2
5 豊里町	161	7.2	222	6.9	▲ 61	0.3
6 米山町	219	9.8	<u>351</u>	<u>10.9</u>	▲ 132	▲ 1.1
7 石越町	151	6.8	240	7.5	▲ 89	▲ 0.7
8 南方町	<u>236</u>	<u>10.6</u>	337	10.5	▲ 101	0.1
9 津山町	84	3.8	182	5.7	▲ 98	▲ 1.9
無回答・無効	69	3.1	88	2.7	▲ 19	0.4
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【職業】

問19 あなたの職業は？

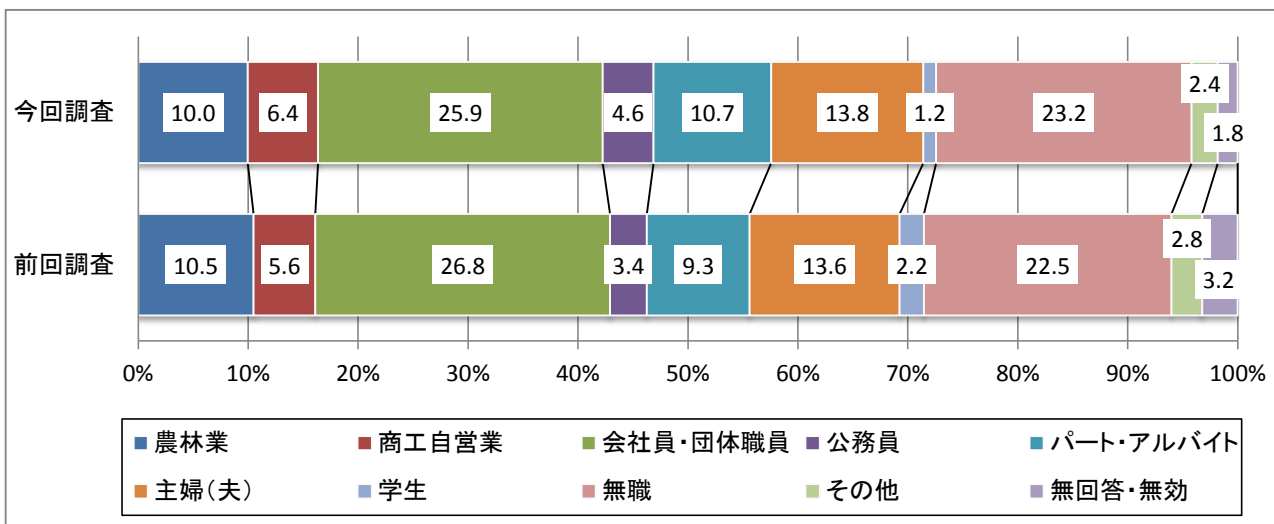
「3 会社員・団体職員」の回答者が576人(回答者全体の25.9%)と最も多く、これに「8 無職」の517人(同23.2%)、「6 主婦(夫)」の308人(同13.8%)が続いている。

前回の調査と比べると、「5 パート・アルバイト」の回答者の割合が1.4ポイント増加し、「7 学生」の回答者の割合は1.0ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 農林業	222	10.0	338	10.5	▲ 116	▲ 0.5
2 商工自営業	142	6.4	181	5.6	▲ 39	0.8
3 会社員・団体職員	<u>576</u>	<u>25.9</u>	<u>863</u>	<u>26.8</u>	▲ 287	▲ 0.9
4 公務員	103	4.6	108	3.4	▲ 5	1.2
5 パート・アルバイト	238	10.7	301	9.3	▲ 63	1.4
6 主婦(夫)	<u>308</u>	<u>13.8</u>	<u>439</u>	<u>13.6</u>	▲ 131	0.2
7 学生	26	1.2	71	2.2	▲ 45	▲ 1.0
8 無職	<u>517</u>	<u>23.2</u>	<u>725</u>	<u>22.5</u>	▲ 208	0.7
9 その他	53	2.4	90	2.8	▲ 37	▲ 0.4
無回答・無効	40	1.8	104	3.2	▲ 64	▲ 1.4
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【通勤・通学先】

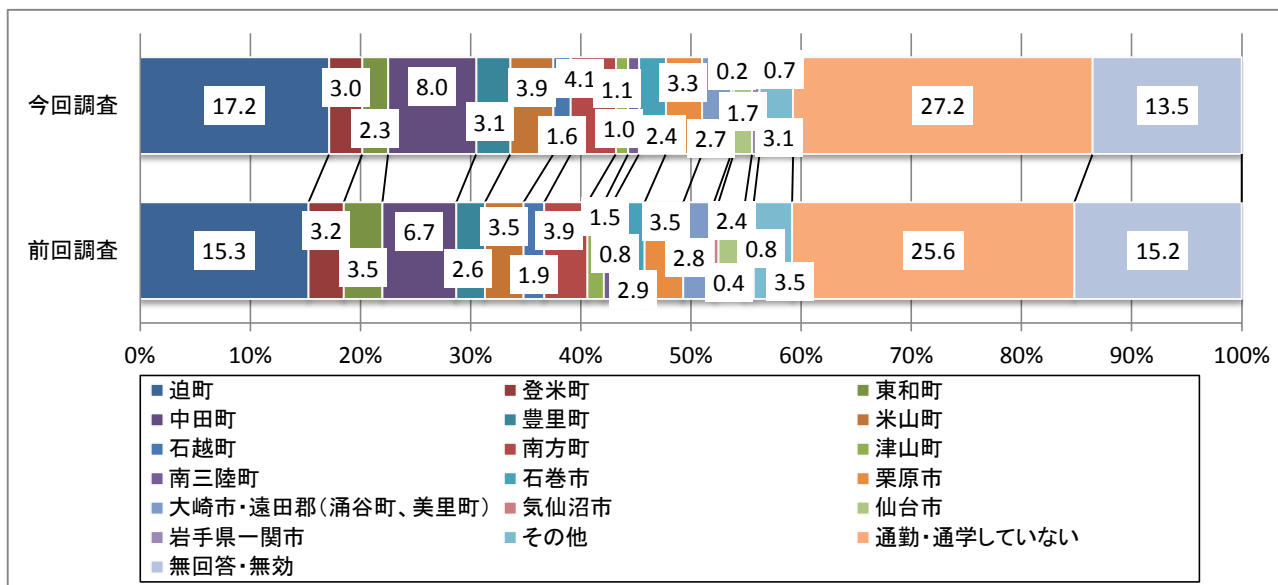
問20 あなたの通勤・通学先はどこですか？

「18 通勤・通学していない」をあげている回答者が605人(回答者全体の27.2%)と最も多く、これに「1 迫町」の382人(同17.2%)、「4 中田町」の178人(同8.0%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「1 迫町」をあげている回答者の割合が1.9ポイント増加し、「3 東和町」をあげている回答者の割合は1.2ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 迫町	382	17.2	493	15.3	▲ 111	1.9
2 登米町	67	3.0	103	3.2	▲ 36	▲ 0.2
3 東和町	52	2.3	114	3.5	▲ 62	▲ 1.2
4 中田町	178	8.0	216	6.7	▲ 38	1.3
5 豊里町	69	3.1	83	2.6	▲ 14	0.5
6 米山町	87	3.9	113	3.5	▲ 26	0.4
7 石越町	35	1.6	60	1.9	▲ 25	▲ 0.3
8 南方町	91	4.1	126	3.9	▲ 35	0.2
9 津山町	25	1.1	47	1.5	▲ 22	▲ 0.4
10 南三陸町	22	1.0	27	0.8	▲ 5	0.2
11 石巻市	54	2.4	93	2.9	▲ 39	▲ 0.5
12 栗原市	73	3.3	113	3.5	▲ 40	▲ 0.2
13 大崎市・遠田郡(涌谷町、美里町)	59	2.7	89	2.8	▲ 30	▲ 0.1
14 気仙沼市	5	0.2	12	0.4	▲ 7	▲ 0.2
15 仙台市	37	1.7	77	2.4	▲ 40	▲ 0.7
16 岩手県一関市	15	0.7	27	0.8	▲ 12	▲ 0.1
17 その他	68	3.1	112	3.5	▲ 44	▲ 0.4
18 通勤・通学していない	605	27.2	824	25.6	▲ 219	1.6
無回答・無効	301	13.5	491	15.2	▲ 190	▲ 1.7
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。



【居住経験】

問21 あなたの居住経験は？

「1 登米市に生まれてからずっと住んでいる」をあげている回答者が1,135人(回答者全体の51.0%)と、回答者全体の半分以上を占めている。これに「2 登米市出身だが市外での居住経験がある」の606人(同27.2%)が続いている。

前回の調査と比べると、「3 県内の他市町村から転入してきた」をあげている回答者の割合が、2.3ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成25年度)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 登米市に生まれてからずっと住んでいる	1,135	51.0	1,765	54.8	▲ 630	▲ 3.8
2 登米市出身だが市外での居住経験がある	606	27.2	838	26.0	▲ 232	1.2
3 県内の他市町村から転入してきた	312	14.0	376	11.7	▲ 64	2.3
4 県外から転入してきた	135	6.1	158	4.9	▲ 23	1.2
無回答・無効	37	1.7	83	2.6	▲ 46	▲ 0.9
計	2,225	100.0	3,220	100.0	▲ 995	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の構成比(%)は、端数処理の関係で計と一致しない場合がある。

